

講義概要

【科目名】 コミュニケーション心理学	【担当教員】 的場 已知子 他	
【区分】 基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・人間の心理や行動基礎にある原理を理解する ・各種心理検査を知り、実施判定をして自分について知る ・患者の心理をよく理解する。患者の行動、知能、性格、情緒などをよく理解する 【授業者】 ・本科目は、臨床心理学の実務経験を有する教員が講義を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	心理学とは何か ①	
2	心理学とは何か ②	
3	心理学とは何か ③	
4	心理学とは何か ④	
5	社会的行動	
6	心理検査の実際 ①	
7	心理検査の実際 ②	
8	心理検査の実際 ③	
9	心理検査の実際 ④	
10	人間の理解のための心理学理論と技法	
11	心理的援助の方法 ①	
12	心理的援助の方法 ②	
13	心理的支援の実際 ①	
14	心理的支援の実際 ②	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・科目修了試験もしくはレポート課題によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 情報処理 (遠隔学習のパソコン活用)	【担当教員】 秋光 淳生、三輪 眞木子	
【区分】 基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・パソコンやインターネットを利用してオンラインで学ぶための素養を身につける。 ・教務情報システム WAKABA をはじめとする放送大学の提供する Web サービスを利用できるようになる。 ・レポートを執筆する際の参考文献の調べ方と引用の仕方が分かる。 ・図表のあるレポートを作成し、プレゼンテーションをできるようになる。 【授業形態】 ・放送大学を利用 ・各自で放送大学教材を利用して学習を進める。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後は教科書等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	パソコンの基礎操作	
2	インターネットのしくみと Web の活用	
3	インターネットを利用した学習	
4	電子メールのしくみと利用	
5	セキュリティと情報倫理	
6	ソーシャルネットワークと学び	
7	図書館の利用方法	
8	電子情報源の利用方法	
9	表計算の基本	
10	図表作成の技法	
11	文書作成の基本	
12	文書作成の技法	
13	プレゼンテーションの基本	
14	プレゼンテーションの技法	
15	パソコンを今後の学習にどう生かすか	
【評価方法】 ・15 回科目終了後試験を実施		
【テキスト・教科書】 ・放送大学教材を利用		

【科目名】 日本語表現法 (日本語リテラシー)	【担当教員】 滝浦 真人	
【区分】 基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 日本語の文章を書くことの基本的な実践能力を養う。 ・ 日本語の表記・語彙・構文法等を踏まえて基本的な構え、文章を読み取って理解し、考えを整理し組み立てる、目的に応じた文章を書く能力を養う。 【授業形態】 ・ 放送大学を利用 ・ 各自で放送大学教材を利用して学習を進める。 【事前・事後学習】 ・ 事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後は教科書等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	日本語の使い方を学ぶ	
2	日本語との付き合い方①：文字と表記	
3	日本語との付き合い方②：和語と漢語と外来語	
4	文章読解①：まとまった文章を読む	
5	文章読解②：文章のつながりを読む	
6	文章構成①：論理トレーニング	
7	日本語との付き合い方③：助詞の機能を理解する。	
8	文章作成①：説明・報告書を作成する。	
9	文章作成②：文体と論理（起承転結型と新聞記事型）	
10	文章構成②：正しい推論、誤った推論	
11	文章構成③：考えを導く方法（三段論法、帰納、演繹）	
12	レポート作成①：論点の整理方法	
13	レポート作成②：論文検索、考察方法	
14	実践のスキル：自己添削の方法	
15	総まとめ	
【評価方法】 ・ 15 回科目終了後試験を実施		
【テキスト・教科書】 ・ 放送大学教材を利用		

【科目名】 生物学	【担当教員】 阿部 弘	
【区分】 基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 21 世紀は「生命科学」の時代である。1953 年のワトソンとクリックによる DNA の二重らせん構造モデルは、生物が持つ遺伝子がどのような仕組みでたんぱく質を作り、いかにして同じ遺伝子を複製（コピー）していくかを示した。その基本となる「細胞」の構造と機能の学習を通して、生命維持のための生物学観を育成する。 【授業形態】 ・講義 【事前・事後学習】 ・シラバスによる予習、授業プリントによる復習と確認小テスト実施。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	オリエンテーション 高校「生物」との関連、講義のねらいと進め方、生命に関する最近の話題	
2	生物の多様性と一様性 生物の多様性、生体を構成する物質、タンパク質と機能	
3	遺伝情報の複製 細胞周期、DNA と遺伝子、DNA の複製	
4	遺伝子の発現 遺伝子の転写、遺伝子の翻訳、タンパク質合成物語、遺伝子の修飾	
5	遺伝子発現の調節 遺伝子発現からみた遺伝子の種類、原核生物の発現調節、真核生物発現調節	
6	細胞の構造 細胞説、生体膜、膜輸送、細胞内の膜構造	
7	細胞骨格 細胞骨格、アクチン繊維、微小管のはたらき	
8	代謝：細胞活動と熱化学 エネルギー通貨としての ATP、代謝の基本反応、酵素と活性調節	
9	生体エネルギー 参加的リン酸化と光リン酸化、酸化還元反応、ATP 合成酵素、光合成炭酸固定反応、C4 光合成、ミトコンドリアと葉緑体	
10	細胞周期 細胞の分裂、細胞腫瘍の各段階、細胞周期エンジン、アポトーシス、ガン増殖	
11	シグナル伝達 刺激と応答、シグナル伝達、刺激の受容、シグナル伝達の具体例、細胞接触による相互作用	
12	発生と分化 受精と卵割、細胞分化と幹細胞、胚の方向決定、誘導作用、器官形成	
13	生殖と減数分裂 有性生殖と無性生殖、体細胞分裂と減数分裂、遺伝的組換え、配偶子形成	
14	生態系と学習の総まとめ SDGs、環境問題と人類、学習のまとめ	
15	○ 科目修了試験 （試験終了後、出題のねらいと問題解説）	
【評価方法】 ・科目修了試験と確認小テストによって評価する。		
【テキスト・教科書】 ・改訂版 フォトサイエンス「生物図録」（数研出版） ・毎時授業プリントを配付する。		

【区 分】 基礎分野	【担当教員】 桑島 治博	
【科目名】 基礎薬理学		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 - 臨床において適切な薬物療法を実践するために、薬物の薬理作用、副作用、生体と薬物の相互作用を学習し、臨床で使用される薬剤の正しい知識と適切な使用法を修得する。 【授業者】 - 本科目は大学において、薬理学教育の実務経験を有する教員が講義を行う 【事前・事後学習】 - 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義項目】	【講義内容】
1	薬理学とはなにか	薬物療法の目的、看護師の役割、薬理作用の基本形式
2	薬物動態	薬物の作用機序、投与経路、体内動態
3	薬物相互作用、薬物使用の影響	薬物の副作用、薬物の連用、併用、相互作用
4	医薬品に関する法律	医薬品の管理 法令、処方箋、添付文書
5	感染症治療に関する事項	抗感染症薬
6	がん治療・免疫治療に関する事項	抗がん薬 免疫治療薬
7	抗アレルギー薬・炎症と抗炎症薬	抗アレルギー薬、抗炎症薬
8	末梢での神経活動に作用する薬物	末梢神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬
9	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神薬、パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、麻酔鎮痛薬
10		
11	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬、狭心症薬、心不全治療、抗不整脈薬
12	血液に関する薬物	貧血治療薬、抗凝固薬、血栓治療薬、抗血小板薬、止血薬
13	呼吸器・消化器に作用する薬物	気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬
14	物質代謝に作用する薬物、漢方	インスリン、骨粗鬆症、治療薬、漢方薬
15	科目修了試験	
【評価方法】 - 科目終了試験を実施 - 筆記試験（多肢選択式）・出欠状況・レポート提出によって評価する		
【テキスト・教科書】 イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂 2 版【南山堂】		

【区 分】 基礎分野	【担当教員】 高島 善史	
【科目名】 健康とスポーツ		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 1 5 コマ
【科目目標】 ・身体を動かすことの意識を再確認し、健康・体力づくりのための知識や方法を習得する ・運動やスポーツ、レクリエーション活動の中から、技術・方法と併せて、コミュニケーションの楽しさ、生涯スポーツとしての楽しみ方、スポーツを通して支援のあり方等について習得する 【授業者】 本科目は実務経験を有する教員が講義・演習を行う 【事前・事後学習】 事前に配布資料を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	オリエンテーション	学内
2	体力を知る 柔軟性 筋力について	学内
3	体力を知る 全身持久力について	学内
4	柔軟性を高める ストレッチの方法（1）	学内
5	柔軟性を高める ストレッチの方法（2）	学内
6	筋力を高める 筋力トレーニングの方法（1）	学内
7	筋力を高める 筋力トレーニングの方法（2）	学内
8	全身持久力を高める 有酸素運動の方法（1）	学内
9	全身持久力を高める 有酸素運動の方法（2）	学内
10	軽スポーツ	学内
11	軽スポーツ	学内
12	軽スポーツ	学内
13	軽スポーツ	学内
14	体力の確認	学内
15	まとめ 講義の振り返り レポートの書き方	学内
【評価方法】 ・レポートによって評価する		
【テキスト・教科書】 ・適宜プリント配布		

【区 分】基礎分野		【担当教員】橋本 親往	
【科目名】中国語Ⅰ			
【開講時期】1 年次		【単位数】1 単位	【コマ数】1 5 コマ
【科目目標】 ①日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現のしかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができたらよい。 ②将来の、本格的な中国語学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話（あいさつ、自己紹介や簡単な会話や関連する単語・常用表現）を身につける。 【授業形態】 対面授業。発音・会話練習に重点を置く。 【事前・事後学習】 事前次回の授業内容を配布する。授業後、翌週の授業開始前に、今回の授業に関連した課題（学習チェックテスト）を提出する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	発音練習	「中国語とは／発音」ローマ字表記／アクセント	課題
2		「中国語の発音とアクセント」北京語音表	
3	会話練習	「こんにちは」挨拶言葉／指示代名詞／「～嗎」の疑問文	小テスト
4		「お元気ですか」時間帯別の挨拶／「也と都」／「你早と早上好」	
5		「お忙しいですか」否定詞を使った疑問文／時制／「あまり～ない」	
6		「家の中のさまざまな生活用品」居間／寝室／浴室／台所／書斎	
7		「お名前は？」自分の名前を中国語で／初対面の挨拶	
8		「今日は何月何日？」日付や曜日／「～でもいいですか」「ね・よ」	
9		「ご紹介します」どなた／ちょっと／所有・所属の「的」	
10		「何人家族ですか」家族関係／所有・所在の「有」／「在」	
11		「基本ボキャブラリーその1」人称代名詞／指示代名詞／疑問詞	
12		「いま何時？」時間の表し方／時間詞を置く語順	
13		「お家はどこですか」数量／「ならばよかった」／～して～する	
14		「試着室はどこ？」ものを尋ねる「すみません」／方位／疑問文	
15		「基本ボキャブラリーその2」介詞／能願動詞／形容詞	
【評価方法】 ・各課の課題（学習チェックテスト）70％ ・出席・授業態度等 30％			
【テキスト・教科書】 ・『どんとこい中国語』（無料中国語会話テキスト）の中国語本文を基に、日本語解説等を修正編集。 ・授業で使うPPTのPDFおよび学習チェックテスト			

【科目名】 解剖学ⅠA	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・人体の構造を器官系ごとに学び、その形態としくみを理解する。 ・人体を構成する細胞と組織を理解する。 ・人体の構造の基本となる骨格を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	解剖学とは：人体の構成	
2	細胞学概説（１）	
3	細胞学概説（２）	
4	組織学概説（１）	
5	組織学概説（２）	
6	組織学概説（３）	
7	人体の区分・方向の用語	
8	骨格系：総論（１）	
9	骨格系：総論（２）	
10	脊柱と椎骨	
11	椎骨	
12	胸郭	
13	上肢骨	
14	下肢骨	
15	振り返り	
【評価方法】		
【テキスト・教科書】		

【科目名】 解剖学ⅠA	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・人体の構造を器官系ごとに学び、その形態としくみを理解する。 ・人体を構成する細胞と組織を理解する。 ・人体の構造の基本となる骨格を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	筆記試験 「基礎・骨格系」 試験フィードバック	
17	頭蓋の骨（１）	
18	頭蓋の骨（２）	
19	頭蓋の骨（３）	
20	関節学総論（１）	
21	関節学総論（２）	
22	頭蓋・脊柱の連結	
23	胸郭・上肢帯の連結	
24	上肢の連結	
25	骨盤の連結	
26	下肢の連結（１）	
27	下肢の連結（２）	
28	筋学総論（１）	
29	筋学総論（２）	
30	筆記試験 「頭部の骨・全身の関節」 振り返り	
【評価方法】 ・筆記試験「基礎・骨格系」と 30 コマ目の講義に「頭部の骨・全身の関節」の試験を実施し、その平均点により評価する。合格点に達し無い者には、解剖学ⅠA全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 解剖学 第2版【医歯薬出版】 ・からだが見える第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 解剖学 I B	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・人体の構造を器官系ごとに学び、その形態としくみを理解する。 ・運動器の主体である筋について理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	頭部の筋	
2	頸部の筋	
3	背部の筋（１）	
4	背部の筋（２）	
5	胸部の筋	
6	腹部・会陰の筋	
7	上肢の筋（１）	
8	上肢の筋（２）	
9	上肢の筋（３）	
10	下肢の筋（１）	
11	下肢の筋（２）	
12	下肢の筋（３）	
13	人体発生の概略	
14	内臓学総論	
15	筋肉 振り返り	
【評価方法】		
【テキスト・教科書】		

【科目名】 解剖学 I B	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・人体の構造を器官系ごとに学び、その形態としくみを理解する。 ・内臓諸器系の機能と構造について理解する。 ・人体における物流を担う脈管系を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	筆記試験 「筋の解剖」 試験フィードバック	
17	消化器系：消化管（１）	
18	消化器系：消化管（２）	
19	消化器系：消化管（３）	
20	消化器系：消化管（４）	
21	消化器系：消化腺（１）	
22	消化器系：消化腺（２）	
23	循環器系総論	
24	心臓	
25	動脈	
26	静脈と胎児循環	
27	リンパ系	
28	呼吸器系（１）	
29	呼吸器系（２）	
30	筆記試験 「消化器系・循環器系・呼吸器系」 振り返り	
【評価方法】 ・筆記試験「筋の解剖」と 30 コマ目の講義に「消化器系・循環器系・呼吸器系」の試験を実施し、その平均点により評価する。合格点に達し無い者には、解剖学 I B 全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 解剖学 第2版【医歯薬出版】 ・からだが見える第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 解剖学ⅡA	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・人体の形態と構造を理解するために神経系の基本的な解剖学的知識を習得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	神経系総論（１）	
2	神経系総論（２）	
3	中枢神経系：脊髄と脳幹	
4	橋・延髄・中脳	
5	小脳・間脳	
6	大脳の構造と機能（１）	
7	大脳の構造と機能（２）	
8	脳の血管と髄膜	
9	末梢神経系：脳神経（１）	
10	末梢神経系：脳神経（２）	
11	脊髄神経（１）	
12	脊髄神経（２）	
13	脊髄神経（３）	
14	自律神経	
15	筆記試験 「神経系」 振り返り	
【評価方法】 ・15 コマの講義に科目修了試験を行い、その点により評価する。 ・合格点に達し無い者には、解剖学ⅡA全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 解剖学 第2版【医歯薬出版】 ・からだが見える第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 解剖学ⅡB	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・人体の形態と構造を理解するために感覚器系、内分泌系、泌尿生殖器系の基本的な解剖学的知識を習得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	伝導路	
2	感覚器	
3	平衡聴覚器	
4	嗅覚器、皮膚	
5	内分泌系	
6	生殖器系	
7	まとめ	
8	筆記試験 「神経系」 振り返り	
【評価方法】 ・8コマの講義にて、科目終了試験を1回実施する。その点により評価する。 ・合格点に達し無い者には、解剖学ⅡB全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 解剖学 第2版【医歯薬出版】 ・からだが見える第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 生理学 I A	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・細胞の構造と機能を理解する。 ・人体の内分泌系、神経系による正常な働きとその機能調節のメカニズムを理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第1章生理学の基礎	
2	第1章生理学の基礎	
3	第1章生理学の基礎	
4	第1章生理学の基礎	
5	第8章内分泌	
6	第8章内分泌	
7	第8章内分泌	
8	第8章内分泌	
9	第8章内分泌	
10	第8章内分泌	
11	第8章内分泌	
12	第8章内分泌	
13	筆記試験 「基礎・内分泌」 試験フィードバック	
14	第10章神経	
15	第10章神経	

【科目名】 生理学ⅠA	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	第10章神経	
17	第10章神経	
18	第10章神経	
19	第10章神経	
20	第10章神経	
21	第10章神経	
22	第10章神経	
23	第10章神経	
24	第10章神経	
25	第10章神経	
26	第10章神経	
27	第10章神経	
28	第10章神経	
29	第10章神経	
30	筆記試験 「神経」・振り返り	
【評価方法】 ・筆記試験「基礎・内分泌」と30コマ目の講義に「神経」の試験を実施し、その平均点により評価する。合格点に達し無い者には、生理学ⅠA全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 公益社団法人 東洋療法学校協会 編 内田さえ、原田玲子 他著 生理学 第3版 [医歯薬出版] からだがみえる第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 生理学 I B	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・人体の運動器、感覚器による正常な働きとその機能調節のメカニズムを理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第 1 1 章 筋	
2	第 1 1 章 筋	
3	第 1 2 章 運動	
4	第 1 2 章 運動	
5	第 1 2 章 運動	
6	第 1 2 章 運動	
7	第 1 2 章 運動	
8	第 1 2 章 運動	
9	第 1 2 章 運動	
10	第 1 2 章 運動	
11	第 1 3 章 感覚	
12	第 1 3 章 感覚	
13	第 1 3 章 感覚	
14	第 1 3 章 感覚	
15	第 1 3 章 感覚	

【科目名】 生理学 I B	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・ヒトの血液循環の過程を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	第 1 3 章 感覚	
17	筆記試験「筋・運動・感覚」 試験フィードバック	
18	第 2 章循環	
19	第 2 章循環	
20	第 2 章循環	
21	第 2 章循環	
22	第 2 章循環	
23	第 2 章循環	
24	第 2 章循環	
25	第 2 章循環	
26	第 2 章循環	
27	第 2 章循環	
28	第 2 章循環	
29	第 2 章循環	
30	筆記試験 「循環」・振り返り	
【評価方法】 ・筆記試験「筋・運動・感覚」と 30 コマ目の講義に「循環」の試験を実施し、その平均点により評価する。合格点に達し無い者には、生理学 I B 全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 公益社団法人 東洋療法学校協会 編 内田さえ、原田玲子 他著 生理学 第 3 版 [医歯薬出版] からだがみえる第 1 版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 生理学ⅡA	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・人体の呼吸、消化吸収、体温、排泄、身体活動の協調の正常な働きとその機能調節のメカニズムを理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第3章 呼吸	
2	第3章 呼吸	
3	第3章 呼吸	
4	第3章 呼吸	
5	第5章 代謝	
6	第4章 消化と吸収	
7	第4章 消化と吸収	
8	第4章 消化と吸収	
9	第4章 消化と吸収	
10	第6章 体温	
11	第7章 排泄	
12	第7章 排泄	
13	第7章 排泄	
14	第15章 身体活動の協調	
15	科目修了試験・振り返り	
【評価方法】 ・15コマの講義に科目修了試験を行い、その点により評価する。 ・合格点に達し無い者には、生理学ⅡA全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 公益社団法人 東洋療法学校協会 編 内田さえ、原田玲子 他著 生理学 第3版 [医歯薬出版] からだがみえる第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 生理学ⅡB	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・ヒトの生殖・成長と老化の過程を理解する。 ・生体の防御機構を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第 9 章 生殖・成長と老化	
2	第 9 章 生殖・成長と老化	
3	第 9 章 生殖・成長と老化	
4	第 9 章 生殖・成長と老化	
5	第 14 章 生体防御	
6	第 14 章 生体防御	
7	第 14 章 生体防御	
8	科目修了試験・振り返り	
【評価方法】 ・ 8 コマの講義にて、科目終了試験を 1 回実施する。その点により評価する。 ・ 合格点に達し無い者には、生理学ⅡB 全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・ 公益社団法人 東洋療法学校協会 編 内田さえ、原田玲子 他著 生理学 第 3 版 [医歯薬出版] からだが見える第 1 版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 基礎運動学	【担当教員】 西倉 尊	
【区分】 専門基礎科目		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 基本的な身体運動力学と歩行のメカニズムを理解すること目標とする。 【授業形態】 ・ 講義、演習 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	運動のしくみ	
2	運動学総論の復習、練習問題	
3	運動のしくみ (肩複合体、肘・前腕①)	
4	肩複合体、肘・前腕①の復習、練習問題	
5	運動のしくみ (肩複合体、肘・前腕②)	
6	肩複合体、肘・前腕②の復習、練習問題	
7	運動のしくみ (股関節・膝①)	
8	股関節・膝①の復習、練習問題	
9	運動のしくみ (股関節・膝②)	
10	股関節・膝②の復習、練習問題	
11	運動のしくみ (正常歩行①)	
12	正常歩行①の復習、練習問題	
13	運動のしくみ (正常歩行②)	
14	正常歩行②の復習、練習問題、総復習	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・ 筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ 配付資料 ・ 土肥信之他 (社) 東洋療法学校協会 リハビリテーション医学 第4版【医歯薬出版】		

【科目名】 スポーツ医学	【担当教員】 横木宗晴	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・鍼灸治療はプロスポーツ、一般スポーツ選手に利用されることが多くなっている。スポーツにおける基礎知識、各スポーツ特有に発生するスポーツの外傷や障害を理解する。 ・スポーツ外傷・障害で発生する各箇所の外傷・障害について学ぶ。 【授業形態】 ・講義、演習 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	スポーツの基礎知識、スポーツ外傷・障害の概要	
2	スポーツと栄養	
3	女性とスポーツ	
4	成長期のスポーツ	
5	中高年者とスポーツ	
6	メディカルチェックについて	
7	頸部、肩の解剖とスポーツ外傷・障害について	
8	体幹の解剖とスポーツ外傷・障害について	
9	肘と手の解剖とスポーツ外傷・障害	
10	膝の解剖とスポーツ外傷・障害	
11	下腿と足部の解剖とスポーツ外傷・障害	
12	各部位におけるスポーツ外傷・障害の鍼灸対応①	
13	各部位におけるスポーツ外傷・障害の鍼灸対応①	
14	スポーツ外傷・障害の予防法 筋力強化法、ストレッチ法	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・参考書】 ・配付資料		

【科目名】 衛生学・公衆衛生学	【担当教員】 吉田 眞夢	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・健康と生活の科学としての衛生学・公衆衛生学を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第 1 章 公衆衛生学の意義 第 2 章 健康	
2	第 3 章 ライフスタイルと健康①	
3	第 4 章 環境と健康①	
4	第 4 章 環境と健康②	
5	第 5 章 産業保健	
6	第 6 章 精神保健	
7	中間試験	
8	第 7 章 母子保健	
9	第 8 章 学校保健	
10	第 9 章 成人・高齢者保健	
11	第 10 章 感染症とその対策	
12	第 11 章 消毒法	
13	第 12 章 疫学	
14	第 13 章 保健統計	
15	科目終了試験	
【評価方法】 ・中間・期末の筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・東洋療法学校協会編 教科書 衛生学・公衆衛生学 【医歯薬出版社】 ・公衆衛生がみえる 第 1 版 【メディックメディア】		

【科目名】 病理学概論Ⅰ	【担当教員】 吉田 眞夢	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 疾病の原因、成り立ち、生体反応などから治療や予防を理解する ・ 微細解剖、分子生物、遺伝、免疫の分野から病理学を把握する ・ 病因刺激による生体の変化から代謝、細胞、環境障害を理解する 【授業形態】 ・ 講義 【事前・事後学習】 ・ 授業前で配付する資料で教科書等を用いて予習し、講義終了後は配布資料を用いて授業内容の復習をすることが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	疾病の概念と分類	
2	病因①（内因：素因と体質、遺伝）	
3	病因②（内因：内分泌、免疫）	
4	病因③（外因：栄養、物理的要因、科学的要因・生物的要因）	
5	循環障害①（充血とうっ血、貧血と虚血、出血と凝固）	
6	循環障害②（血栓症・塞栓症、梗塞、水腫、脱水）	
7	循環障害③（浮腫、脱水症、水中毒、ショック）	
8	退行性病変①（萎縮、変性、壊死、アポトーシス）	
9	退行性病変②（加齢と老化、生活習慣病）	
10	進行性病変①（肥大、再生、化生、移植と拒絶反応）	
11	進行性病変②（創傷治癒、肉芽形成、組織内異物の処理）	
12	炎症①（化学伝達物質と循環障害）	
13	炎症②（炎症過程と組織の増殖）	
14	炎症③（変質性炎、線維素性炎）	
15	科目終了試験	
【評価方法】 ・ 15 回目に科目終了試験実施 ・ 筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ 東洋療法学校協会編 病理学概論 第2版【医歯薬出版】 ・ 配付プリント		

【科目名】 病理学概論Ⅱ	【担当教員】 吉田 眞夢	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・炎症や腫瘍の成立を学び、発生予防の方策を身につける ・疾病に対する生体防御機構を理解する ・先天性疾患の発生メカニズムを理解する 【授業形態】 ・講義 【事前・事後学習】 ・授業前で配付する資料で教科書等を用いて予習し、講義終了後は配布資料を用いて授業内容の復習をすることが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	腫瘍①（腫瘍とは、腫瘍の形態と構造）	
2	腫瘍②（腫瘍の分類）	
3	腫瘍③（良性腫瘍と悪性腫瘍）	
4	腫瘍④（良性腫瘍と悪性腫瘍）	
5	免疫Ⅰ（自然免疫と獲得免疫）	
6	免疫Ⅱ（アレルギー、免疫不全、自己免疫疾患）	
7	先天性疾患Ⅰ（先天性代謝異常、遺伝性疾患、染色体異常）	
8	科目終了試験	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施する。 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・東洋療法学校協会編 病理学概論 第2版【医薬薬出版】 ・配付プリント		

【科目名】 臨床医学総論Ⅰ	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・現代医学の代表的な診察学・診断学、治療学の概要を理解し、プライマリ・ケアを実践できる鍼灸師を涵養する。 ・医療面接の概要を理解し、問診、診察の進行を学ぶ。 ・臨床で必要な診断学（脳神経・運動器以外）と検査学の概要を学ぶ。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	診察の概要	
2	診察の方法（医療面接）	
3	診察の方法（視診・触診・打診・聴診）	
4	診察の方法（視診・触診・打診・聴診）	
5	診察の方法（測定法・神経系の診察）	
6	生命徴候（バイタルサイン）の診察	
7	全身の診察（顔貌・精神状態）	
8	全身の診察（言語・身体測定・体格・栄養状態）	
9	全身の診察（姿勢と体位・歩行）	
10	全身の診察（皮膚・粘膜・皮下組織・爪・リンパ節・他）	
11	局所診察（頭部・顔面・眼・鼻・口腔）	
12	局所診察（頸部・胸部・乳房）	
13	局所診察（肺、胸膜・心臓・腹部）	
14	局所診察（背部・四肢）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 臨床医学総論 第2版【医歯薬出版】 ・診察ができる vol1 第1版【メディックメディア】		

【科目名】 臨床医学総論ⅡA	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・西洋医学の代表的な診察法・診断法、検査法を理解し、プライマリ・ケアを実践できる鍼灸師を涵養する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	診察学 神経系の診察（感覚機能検査）	
2	診察学 神経系の診察（感覚機能検査）（反射検査）	
3	診察学 神経系の診察（反射検査）	
4	診察学 神経系の診察（脳神経の検査）	
5	診察学 神経系の診察（脳神経の検査）	
6	診察学 神経系の診察（脳神経の検査）	
7	診察学 神経系の診察（髄膜刺激症状、その他の検査）	
8	診察学 運動機能検査（運動麻痺、筋肉の異常）	
9	診察学 運動機能検査（不随意運動、協調運動、起立と歩行）	
10	診察学 運動機能検査（ROM 検査、MMT、ADL 評価）	
11	診察学 運動機能検査（ROM 検査、MMT、ADL 評価）	
12	診察学 運動機能検査（徒手による整形外科的検査）	
13	診察学 運動機能検査（徒手による整形外科的検査）	
14	診察学 その他の診察（救急時の診察、女性の診察、小児の診察、高齢者の診察）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15 コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 臨床医学総論 第2版【医歯薬出版】 ・診察ができる vol. 1 第1版【メディックメディア】		

【科目名】 臨床医学総論ⅡB	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 西洋医学の診断に用いられる各種検査基準値を理解し、プライマリ・ケアを実践できる鍼灸師を涵養する ・ 臨床検査法を理解し、教科書に記載のある各種疾患について、その診察法と病態の概要を学習する 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	診察学 臨床検査法（一般検査）	
2	診察学 理化学的検査（血液生化学検査）	
3	診察学 理化学的検査（生理学的検査および画像診断の概要）	
4	おもな症状の診察法（1）動悸、多尿	
5	おもな症状の診察法（2）嗄声、嚥下障害	
6	おもな症状の診察法（3）ショック、意識障害	
7	おもな症状の診察法（4）めまい、眼振、耳鳴り、難聴	
8	おもな症状の診察法（5）腹痛、下痢、便秘、悪心、嘔吐、吐血、下血	
9	おもな症状の診察法（6）不眠、疲労、倦怠	
10	おもな症状の診察法（7）運動麻痺、テタニー	
11	おもな症状の診察法（8）頭痛、顔面痛、顔面麻痺	
12	おもな症状の診察法（9）出血傾向、易感染症	
13	治療学 理学療法、薬物療法	
14	治療学 食事療法、その他の療法、臨床心理 心理検査	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・ 15 コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・ （社）東洋療法学校協会編 臨床医学総論 第2版【医歯薬出版】 ・ 診察ができる vol. 1 第1版【メディックメディア】		

【科目名】 臨床医学各論Ⅰ	【担当教員】 横木 宗晴	
【区分】 専門基礎科目		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・将来臨床で実際に患者さんの病状を把握し治療することができるに足る知識を身につける。 ・自分自身が病状を把握できるのみでなく患者さんが理解できるように説明を行い、治療の同意を得ることができる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて解剖学や生理学の予習し構造や働きを理解する。 ・講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第1章 感染症①	
2	第1章 感染症②	
3	第1章 感染症③	
4	第2章 消化管疾患①	
5	第2章 消化管疾患②	
6	第2章 消化管疾患③	
7	第2章 消化管疾患④	
8	第3章 肝・胆・膵疾患①	
9	第3章 肝・胆・膵疾患②	
10	第3章 肝・胆・膵疾患③	
11	第4章 呼吸器疾患①	
12	第4章 呼吸器疾患②	
13	第4章 呼吸器疾患③	
14	第4章 呼吸器疾患④	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15 回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 臨床医学各論 第2版【医歯薬出版】 ・配付資料		

【科目名】 臨床医学各論ⅡA	【担当教員】 横木 宗晴	
【区分】 専門基礎		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・患者に対して最善の専門的な支援を行うためには、まずは、患者の病態を的確に理解することと判断が肝要である。本科目では西洋医学的な知見からの各種疾患の病態生理、症状、診断、治療、経過と予後などを学習し、それらの理解を目標とする。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義を行う。 【事前・事後学習】 ・授業前で配付する資料で教科書等を用いて予習し、講義終了後は配布資料を用いて授業内容の復習をすることが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第5章 腎・尿器疾患①	
2	第5章 腎・尿器疾患②	
3	第5章 腎・尿器疾患③	
4	第6章 内分泌疾患①	
5	第6章 内分泌疾患②	
6	第7章 代謝・栄養疾患①	
7	第7章 代謝・栄養疾患②	
8	第8章 整形外科疾患①	
9	第8章 整形外科疾患②	
10	第8章 整形外科疾患③	
11	第8章 整形外科疾患④	
12	第8章 整形外科疾患⑤	
13	第8章 整形外科疾患⑥	
14	第8章 整形外科疾患⑦	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 臨床医学各論 第2版【医歯薬出版】 ・配付資料		

【科目名】 臨床医学各論ⅡB	【担当教員】 横木 宗晴	
【区分】 専門基礎		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・患者に対して最適な医療の提供には、医療の東西を問わず、患者の抱える病態の理解と正しい治療が必要である。 ・本科目では西洋医学的な知見からの各種疾患の病態生理、症状、診断、治療、経過と予後などを学習し、それらの理解を目標とする。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義を行う。 【事前・事後学習】 ・授業前で配付する資料で教科書等を用いて予習し、講義終了後は配布資料を用いて授業内容の復習をすることが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第9章 循環器疾患①	
2	第9章 循環器疾患②	
3	第9章 循環器疾患③	
4	第9章 循環器疾患④	
5	第10章 血液・造血器疾患①	
6	第10章 血液・造血器疾患②	
7	第11章 神経疾患①	
8	第11章 神経疾患②	
9	第11章 神経疾患③	
10	第11章 神経疾患④	
11	第11章 神経疾患⑤	
12	第12章 リウマチ性疾患・膠原病①	
13	第12章 リウマチ性疾患・膠原病②	
14	第12章 リウマチ性疾患・膠原病③	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・(社)東洋療法学校協会編 臨床医学各論 第2版【医歯薬出版】 ・配付資料		

【科目名】 リハビリテーション医学Ⅰ	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・医学的リハビリテーションの概要について理解し、リハビリテーション評価学のうち基本的なものの概要を理解する ・リハで使用する種々の補助具について理解する。 ・リハビリテーションの主な対象疾患について理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	リハビリテーション総説	
2	高齢者のリハビリ、パーキンソン病	
3	障害の評価	
4	理学療法	
5	作業療法	
6	杖、装具	
7	切断のリハビリテーション（１）	
8	切断のリハビリテーション（２）	
9	脳卒中のリハビリテーション	
10	脊髄損傷のリハビリテーション（１）	
11	脊髄損傷のリハビリテーション（２）	
12	小児のリハビリテーション（１）	
13	小児のリハビリテーション（２）	
14	骨関節疾患のリハビリテーション（１）	
15	科目修了試験・振り返り	
【評価方法】 ・１５回の講義にて、科目修了試験を１回実施する。その点により評価する。 ・合格点に達し無い者には、リハビリテーション医学Ⅰ全領域の再試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・土肥信之他（社）東洋療法学校協会 リハビリテーション医学 第４版【医歯薬出版】 ・からだが見える第１版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 リハビリテーション医学Ⅱ	【担当教員】 大野 達也	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・ 主な医学的リハビリテーションの対象と、基本的な対応（治療、援助、支援）について理解する。 ・ はり師きゅう師国家試験において出題頻度の高い事項に関して演習問題を用いながら理解する 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	関節リウマチのリハビリテーション	
2	末梢神経障害のリハビリテーション	
3	呼吸器疾患のリハビリテーション	
4	心疾患のリハビリテーション	
5	運動のしくみ①	
6	運動のしくみ②	
7	国家試験対策	
8	科目修了試験・振り返り	
【評価方法】 ・ 8 コマの講義にて筆記試験を行い評価する。		
【テキスト・教科書】 ・ 土肥信之他（社）東洋療法学校協会 リハビリテーション医学 第4版【医歯薬出版】 ・ からだがみえる第1版 人体の構造と機能 [メディックメディア]		

【科目名】 漢方栄養学	【担当教員】 小池 郁代	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・薬膳とは中医学理論に基づいて食材、中薬（生薬）と組合せた料理のことで、古くから中国には料理の栄養、効果、色、香り、味、形などすべて揃えて、食養生の方法でもある。薬膳を学び、今まで勉強した東洋医学の知識を活かして、医食同源における五行の考えを取り入れ、各々の体質（陰陽・虚実、温熱・涼寒など）を把握し、その人の体質に適した季節の食材を選ぶ作った料理で健康を管理し病気を掛からない体を作る。 【授業者】 ・本科目は、中医薬膳指導士の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	中医薬膳学の概念と歴史	
2	中医薬膳学の基本理論	
3	薬膳の特徴・分類・応用	
4	薬膳の基本	
5	四季に合わせた薬膳	
6	五臓の働きに合わせた薬膳Ⅰ	
7	五臓の働きに合わせた薬膳Ⅱ	
8	体質に合わせた薬膳	
9	年齢に合わせた薬膳	
10	食療（病名から薬膳を組み立てる）Ⅰ	
11	食療（病名から薬膳を組み立てる）Ⅱ	
12	食療（病名から薬膳を組み立てる）Ⅲ	
13	調理実習①	
14	調理実習②	
15	テスト	
【評価方法】 ・レポートの内容を総合して評価する。		
【テキスト・教科書】 ・実用 中医薬膳学 ・資料配布		

【科目名】 医療概論	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・ 施術者、医療関係者として知っておかねばならない医療史と現行の医療システム及び医療にたずさわる者としての考え方（医療倫理、インフォームド・コンセント、QOL、バイオエシックスの概念、その他医療問題等）について学習する。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 講義終了後は教科書、ノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	医学と医療の歴史	
2	現代医療の課題	
3	現代の医療制度（医療従事者と医療施設）	
4	現代の医療制度（医療と医療経済）	
5	現代の医療制度（医療保険と公的医療負担）	
6	現代の医療制度（介護サービス等）	
7	医療従者の倫理（医療倫理、施術者の倫理）	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・ 8 コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・ ㈱東洋療法学校協会 編 医療概論 医歯薬出版		

【科目名】 関係法規	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 - 鍼灸業務を行う上で必要な鍼灸及び医療全般の、法の順守の重要性を理解する 【授業者】 - 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 - 講義終了後は教科書、ノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	法とは何か	
2	あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律 1	
3	あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律 2	
4	関係法規 1 医療法・医師法・その他医療従事者に関する法規	
5	関係法規 2 薬事法規・衛生関係法規・社会福祉関係法規	
6	関係法規 3 社会福祉関係法規	
7	関係法規 4 社会保障関係法規・その他	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 8コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 〔株〕東洋療法学校協会 編 関係法規 医歯薬出版		

【科目名】 職業倫理	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門基礎分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・医療人に必要な倫理観を理解する。 ・社会に必要とされる鍼灸師を理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	医療従事者としての心構え	
2	はり師、きゅう師について	
3	多職種連携（看護師が鍼灸に期待する事）老年期	
4	多職種連携（看護師が鍼灸に期待する事）周産期	
5	多職種連携（柔整師が鍼灸に期待する事）	
6	事例をもとに考える ケース 1	
7	看護 ともしびの灯参加	
8	科目修了試験	
【評価方法】 ・8 回目に科目終了試験を実施		
【テキスト・教科書】		

【科目名】 はりきゅう理論Ⅰ	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・鍼灸の基礎知識を身につける ・鍼灸療法の説明ができる ・安全な鍼灸療法の運用が理解でき、鍼灸療法における医療事故を防止できる 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	概論・鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式 1	
3	刺鍼の方式と術式 2	
4	特殊鍼法	
5	灸の基礎	
6	灸術の種類	
7	リスク管理	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
【評価方法】 ・8コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・東洋療法学校協会編 はりきゅう理論第3版【医道の日本社】		

【科目名】 東洋医学概論ⅠA	【担当教員】 吉田眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・東洋医学は独自の医学モデルをもっている。その医学モデルを理解し、自由に運用できる知識を修得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	東洋医学の特徴	
2	生体物質（１）精	
3	生体物質（２）気	
4	生体物質（３）血	
5	生体物質（４）津液	
6	生体物質（５）生体物質の相互関係	
7	神について	
8	確認試験	
9	人体における陰陽 蔵象学説	
10	蔵象（１）肝系統	
11	蔵象（２）心系統	
12	蔵象（３）脾系統	
13	蔵象（４）肺系統	
14	蔵象（５）腎系統 蔵象（６）三焦	
15	科目終了試験	
【評価方法】 ・確認試験、15回目に科目終了試験を実施		
【テキスト・教科書】 ・（公社）東洋療法学校協会編 東洋医学概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 東洋医学概論 I B	【担当教員】 吉田眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・東洋医学は独自の医学モデルをもっている。その医学モデルを理解し、自由に運用できる知識を修得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	蔵象（6）五臓の相互関係①	
2	蔵象（7）五臓の相互関係②	
3	蔵象（8）五臓の相互関係③	
4	蔵象（9）全身の気機①	
5	蔵象（10）全身の気機②	
6	経絡①	
7	経絡②	
8	確認試験	
9	陰陽五行	
10	病因病機①	
11	病因病機②	
12	病因病機③	
13	標本と主客 論治 治則 治法①	
14	論治 治法②	
15	科目終了試験	
【評価方法】 ・確認試験、15 回目に科目終了試験を実施		
【テキスト・教科書】 ・（公社）東洋療法学校協会編 東洋医学概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 経絡経穴概論ⅠA	【担当教員】 新村 孝雄	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 2単位	【コマ数】 30コマ
【科目目標】 ・鍼灸の施術対象である経絡経穴の概論を理解する。 ・名称、位置を知り、正確に取穴できる。 ・臨床応用できる知識を修得する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	講義概要説明	
2	経脈と経穴の関係など	
3	経絡の分類	
4	解剖学的肢位 関節の運動	
5	流注の法則	
6	体表指標	
7	督脈	
8	督脈	
9	督脈 取穴演習・骨度法	
10	任脈	
11	任脈	
12	肺経 五行穴・五腧穴	
13	任脈 取穴演習・肺経	
14	肺経	
15	肺経 取穴演習・大腸経	
【評価方法】 ・取穴演習、総合演習、科目終了試験を実施して評価する。 ・取穴演習や総合演習では実技も含まれる。 ・科目修了試験は30回目に筆記で行われる。		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】 ・配布資料		

【科目名】 経絡経穴概論ⅠA	【担当教員】 新村 孝雄	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 2単位	【コマ数】 30コマ
【科目目標】 ・鍼灸の施術対象である経絡経穴の概論を理解する。 ・名称、位置を知り、正確に取穴できる。 ・臨床応用できる知識を修得する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	大腸経	
17	大腸経 取穴演習・胃経	
18	胃経	
19	胃経	
20	脾経	
21	胃経 取穴演習・脾経	
22	脾経	
23	脾経 取穴演習・心経	
24	小腸経	
25	小腸経	
26	小腸経	
27	心経小腸経 取穴演習	
28	総合演習	
29	総合演習	
30	期末試験	
【評価方法】 ・取穴演習、総合演習、科目終了試験を実施して評価する。 ・取穴演習や総合演習では実技も含まれる。 ・科目修了試験は30回目に筆記で行われる。		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】 ・配布資料		

【科目名】 経絡経穴概論 I B	【担当教員】 新村 孝雄	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・鍼灸の施術対象である経絡経穴の概論を理解する。 ・名称、位置を知り、正確に取穴できる。 ・臨床応用できる知識を修得する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	膀胱経	
2	膀胱経	
3	膀胱経	
4	膀胱経	
5	膀胱経 前半 取穴演習	
6	膀胱経	
7	膀胱経	
8	三焦経	
9	膀胱経 後半 取穴演習・腎経	
10	腎経	
11	腎経	
12	腎経 取穴演習・心包経	
13	三焦経	
14	三焦経	
15	三焦経心包経 取穴演習	
【評価方法】 ・取穴演習、総合演習、科目終了試験を実施して評価する。 ・取穴演習や総合演習では実技も含まれる。 ・科目修了試験は 30 回目に筆記で行われる。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第 2 版【医道の日本社】		

【科目名】 経絡経穴概論 I B	【担当教員】 新村 孝雄	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 30 コマ
【科目目標】 ・鍼灸の施術対象である経絡経穴の概論を理解する。 ・名称、位置を知り、正確に取穴できる。 ・臨床応用できる知識を修得する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	胆経	
17	胆経	
18	胆経	
19	胆経	
20	肝経	
21	胆経 取穴演習・肝経	
22	肝経	
23	肝経 取穴演習・奇経	
24	奇穴	
25	奇穴	
26	奇穴	
27	奇穴 取穴演習	
28	総合演習	
29	総合演習	
30	期末試験	
【評価方法】 ・取穴演習、総合演習、科目終了試験を実施して評価する。 ・取穴演習や総合演習では実技も含まれる。 ・科目修了試験は 30 回目に筆記で行われる。		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第 2 版【医道の日本社】 ・配布資料		

【科目名】 はりきゅう理論ⅡA	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・鍼灸治療機序の科学的理解の必要性を理解する ・鍼灸の治療効果を生理学的に理解する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・講義終了後は教科書、ノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	鍼灸治療の基礎知識（生体の調節）	
2	鍼灸治療の基礎知識（感覚）	
3	鍼灸治療の基礎知識（炎症）	
4	鍼灸治療の基礎知識（体表の変化）	
5	鍼灸治療機序（鍼鎮痛）	
6	鍼灸治療機序（循環系と鍼灸）	
7	鍼灸治療機序（運動系と鍼灸）	
8	鍼灸治療機序（消化器系と鍼灸）	
9	鍼灸治療機序（泌尿器系と鍼灸）	
10	鍼灸治療機序（リラクゼーションと鍼灸）	
11	鍼灸治療機序（生体防御系と鍼灸）	
12	鍼灸治療機序と臨床（刺激部位）	
13	鍼灸治療機序と臨床（刺激入力）	
14	鍼灸治療機序と臨床（鍼灸刺激による治療機序）	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・15 コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 はりきゅう理論 第3版【医道の日本社】		

【科目名】 はりきゅう理論ⅡB	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・はり師、きゅう師となるために必要な鍼灸の施術用具、施術方法、治効理論の知識の再確認を通して国家試験受験対策を合わせて行う 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて復習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を十分に理解出来たか確認しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	鍼の基礎知識復習・国試対策①	
2	刺鍼の方式と術式復習・国試対策②	
3	刺鍼の方式と術式、特殊鍼法復習・国試対策③	
4	灸の基礎知識、灸術の種類復習・国試対策④	
5	鍼灸の臨床応用、リスク管理復習・国試対策⑤	
6	鍼灸治効の基礎、一般治効理論復習・国試対策⑥	
7	治効機序の復習・国試対策⑦	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
【評価方法】 ・8コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 はりきゅう理論 第3版【医道の日本社】		

【科目名】 東洋医学臨床論ⅠA	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・現代医学である西洋医学を基礎とした考え方と鍼灸学が属する東洋医学を基本とする考え方の両方を理解し臨床に役立てる。また、四診法を活用した“証”を導きだすことができる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第1章 総論（第1節 鍼灸臨床、第2節 治療部位）	
2	第2節 治療穴の主治と効能、第3節 手技と手法、Ⅰ．眼精疲労	
3	Ⅱ．気分障害	
4	Ⅲ．めまい	
5	2-2 Ⅰ．動悸・息切れ	
6	Ⅱ．血圧異常	
7	Ⅲ．睡眠障害	
8	2-3 Ⅰ．食欲不振	
9	Ⅱ．肥満	
10	Ⅲ．やせ（るい痩）	
11	Ⅳ．悪心・嘔吐	
12	Ⅴ．便秘	
13	Ⅵ．下痢	
14	Ⅷ．歯痛	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・（公社）東洋療法学校協会（編集）新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）【南江堂】		

【科目名】 東洋医学臨床論 I B	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・現代医学である西洋医学を基礎とした考え方と鍼灸学が属する東洋医学を基本とする考え方の両方を理解し臨床に役立てる。また、四診法を活用した“証”を導きだすことができる。選穴方法や病態把握によって関係の深い局所部位や刺激部位を導き出す方法が理解できるようになる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	第2章 I. 疼痛①	
2	I. 疼痛②	
3	II. 頭痛	
4	III. 顔面痛	
5	IV. 関節痛	
6	V. 頸肩腕痛	
7	VI. 上肢痛	
8	まとめ①	
9	VII. 肩関節痛	
10	VIII. 腰下肢痛	
11	IX. 腰痛、X. 腰下肢痛	
12	XI. 膝痛	
13	XII. 胸痛	
14	XIII. 腹痛	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・（公社）東洋療法学校協会（編集）新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）【南江堂】		

【科目名】 東洋医学臨床論ⅡA	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・疾患と五臓の関わりを知り、病態を理解できるようになる。また関連の深い経絡との関係を知り治療に役立てるようになる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	2-4 肺系統 I. 咳嗽と喀痰	
2	II. 呼吸困難	
3	III. 鼻閉・鼻汁	
4	第2章 各論 2-5 腎系統 I. 脱毛症	
5	II. 耳鳴・難聴	
6	III. 排尿障害	
7	IV. ED（勃起障害）	
8	第3節 全身の症候 I. 疲労と倦怠感	
9	II. 発熱	
10	III. 冷え、IV. のぼせ	
11	V. 浮腫	
12	VI. 掻痒感（痒み）、肌荒れ、発疹	
13	第4節 その他の症候 I. 顔面麻痺	
14	II. 歩行異常、III. 口渇	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・科目修了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論（はりきゅう編）【南江堂】		

【科目名】 東洋医学臨床論ⅡB	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・対象とする人の特性を知り的確なアドバイスを治療に組み入れることができる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	Ⅳ. 出血傾向	
2	第5節 女性特有の症候 I. 概説、Ⅱ. 月経異常	
3	Ⅲ. 性器出血	
4	Ⅳ. 帯下	
5	Ⅴ. 不妊症	
6	Ⅵ. 骨盤位（逆子）	
7	Ⅶ. つわり	
8	Ⅷ. 乳汁分泌不全	
9	第6章 小児特有の症候 I. 概説、	
10	Ⅱ. 小児神経症（疳の虫）	
11	Ⅲ. 夜尿症	
12	第7章 老年特有の症候 I. 概説、Ⅱ. 認知症	
13	国家試験対策（演習問題及び解説）	
14	国家試験対策（演習問題及び解説）	
15	科目修了試験、振り返り	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論（はりきゅう編）【南江堂】		

【科目名】 東洋医学概論ⅡA	【担当教員】 吉田 眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・一年次に学習した理論の上に、臨床の考え方を積み重ね、病人の診方、捉え方、それに応じた鍼灸治療法—どの経絡・経穴を用いるのか、手技はどのようにするのか—を理解する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	四診 望診①	
2	四診 望診②	
3	四診 聞診	
4	四診 問診①	
5	四診 問診②	
6	四診 問診③	
7	四診 問診④	
8	四診 問診⑤	
9	確認試験	
10	四診 切診①	
11	四診 切診②	
12	四診 切診③	
13	四診合参 治療の概要	
14	まとめ	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・確認試験、15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 東洋医学概論【医道の日本社】 ・配付資料		

【科目名】 東洋医学概論ⅡB	【担当教員】 吉田 眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・一年次に学習した理論の上に、臨床の考え方を積み重ね、病人の診方、捉え方、それに応じた灸治療法一どの経絡・経穴を用いるのか、手技はどのようにするのかを理解する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	弁証 弁証方法 八綱弁証①	
2	弁証 弁証方法 八綱弁証②	
3	弁証 弁証方法 八綱弁証③	
4	弁証論治の進め方と証の決定	
5	難経六十九難	
6	難経七十五難	
7	確認試験	
8	人体の見方①	
9	人体の見方②	
10	東洋医学の歴史	
11	東西両医学の違い 東洋医学の多様性①	
12	東洋医学の多様性② 現在中医学	
13	東洋医学概論まとめ①	
14	東洋医学概論まとめ②	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・確認試験、15回目に科目終了試験を実施 ・筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・(社) 東洋療法学校協会編 東洋医学概論【医道の日本社】		

【科目名】 東洋医学概論Ⅲ	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 東洋医学の考え方の要点を総復習する。 ・ 臨床に即した東洋医学の知識・方法を整理する。 ・ 国家資格合格の水準まで専門分野科目の知識習得を目的とする。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	国家試験対策（過去問題分析）	
2	国家試験対策（東洋医学の起源と発展・陰陽学説）	
3	国家試験対策（五行学説）	
4	国家試験対策（気血津液）	
5	国家試験対策（五臓六腑①）	
6	国家試験対策（五臓六腑②）	
7	国家試験対策（臓腑経絡）	
8	国家試験対策（病因論）	
9	国家試験対策（病理と病証①）	
10	国家試験対策（病理と病証②）	
11	国家試験対策（診断論①）	
12	国家試験対策（診断論②）	
13	国家試験対策（治療法①）	
14	国家試験対策（治療法②）	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・ 確認試験、15 回目に科目終了試験を実施 ・ 筆記試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ (社) 東洋療法学校協会編 東洋医学概論【医道の日本社】		

【科目名】 経絡経穴概論ⅡA	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・経絡経穴の概念、経絡の流注が理解でき、全身の経穴の理解と取穴ができる。 ・同じ骨度にある経穴を理解する。 ・所属する筋肉・神経支配・血管などを意識しながら取穴することができる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	経絡経穴の概説	
2	手の三陰経の横並び及び要穴の復習	
3	手の三陰経の取穴	
4	手の三陽経の横並び及び要穴の復習	
5	手の三陽経の取穴	
6	足の三陽経の横並び及び要穴の復習	
7	足の三陽経の取穴	
8	足の陰経の横並び及び要穴の復習	
9	足の三陰経取穴	
10	復習・練習問題	
11	腹部の経穴及び横並びの復習	
12	腹部の取穴	
13	胸部の経穴及び横並びの復習	
14	胸部の取穴	
15	科目修了試験、振り返り	
【評価方法】 ・筆記試験による科目終了試験を実施する。 ・		
【テキスト・教科書】 ・（公社）東洋療法学校協会 日本理療科教員連盟 編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 経絡経穴概論ⅡB	【担当教員】 鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 経絡経穴の概念、経絡の流注が理解できる。 ・ 同じ骨度にある経穴を理解する。 ・ 所属する筋肉・神経支配・血管などを意識しながら取穴することができる。 ・ 奇経八脈、要穴の理解ができる。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	背部経穴の横並びの復習	
2	背部経穴の横並びの取穴	
3	顔面・頸部経穴の復習	
4	顔面・頸部経穴の取穴	
5	頭部経穴の横並びの復習	
6	頭部経穴の取穴	
7	大腿部経穴の復習	
8	大腿部経穴の取穴	
9	復習	
10	奇穴 1	
11	奇穴 2	
12	奇経八脈（督脈・任脈・衝脈・帶脈）	
13	奇経八脈（陽・陰維脈、陽・陰蹻脈）	
14	経絡・経穴の現代的研究	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・ 筆記試験による科目終了試験を実施		
【テキスト・教科書】 ・ （公社）東洋療法学校協会 日本理療科教員連盟 編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 経絡経穴概論Ⅲ	【担当教員】 横木 宗晴	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 今まで学習してきた経絡経穴の知識を総復習する ・ 国家資格合格の水準に達する専門分野科目の知識習得を目的とする 【授業者】 ・ 本科目は、はり師きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ シラバスを参考に教科書等を用いて予習し、授業後は配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	経絡経穴の基礎について	
2	経脈の流注と触察方法について	
3	要穴（特定穴）の解説	
4	手三陰経の解説	
5	手三陰経の取穴方法	
6	手三陽経の解説	
7	手三陽経の取穴方法	
8	足三陰経の解説	
9	足三陰経の取穴方法	
10	足三陽経の解説	
11	足三陽経の取穴方法	
12	顔面部の解説・取穴方法	
13	頸部の解説・取穴方法	
14	胸腹部・背部の解説・取穴方法	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・ 15 回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・ (社) 東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】 ・ 配付資料		

【科目名】鍼灸適応学	【担当教員】 榎本 定夫	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 東洋医学と西洋医学における病態把握の違いを理解する。 ・ 鍼灸施術で対応できる範囲と治療法を理解し、臨床に対応できる様にする。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ 授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	東洋医学と西洋医学の診断法の違い	
2	鍼灸医学の概要	
3	臓腑経絡説に基づく鍼灸臨床（1）肺経・大腸経	
4	臓腑経絡説に基づく鍼灸臨床（2）脾経・胃経	
5	臓腑経絡説に基づく鍼灸臨床（3）心経・小腸経	
6	臓腑経絡説に基づく鍼灸臨床（4）腎経・膀胱経	
7	臓腑経絡説に基づく鍼灸臨床（5）心包経・三焦経	
8	臓腑経絡説に基づく鍼灸臨床（6）肝経・胆経	
9	四診法（1）望診・聞診	
10	四診法（2）問診	
11	四診法（3）切診①脈診	
12	四診法（4）切診②腹診・背診	
13	四診法（5）切診③原穴診	
14	四診法（6）切診④切経	
15	科目修了試験、総まとめ	
【評価方法】 ・ 確認試験を行う		
【テキスト・教科書】 ・ 配布資料		

【科目名】病態生理学	【担当教員】 白野 吉明	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・ 様々な病態の発症機序を生理学的に理解し、その原因を知る。 ・ 得た知識を鍼灸施術に結び付ける術を学習する。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ 授業後に配布資料やノートを参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	痛みの病態生理 1	
2	痛みの病態生理 2	
3	悪性疾患の鑑別	
4	腰痛	
5	頸肩痛	
6	膝痛	
7	頭痛	
8	胸痛	
9	腹痛	
10	発熱	
11	鬱病	
12	下痢、便秘	
13	高血圧、低血圧	
14	肥満	
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・ 15 コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・ 配布資料		

【科目名】 触診法	【担当教員】 吉田 顕識	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次 後期	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15 コマ
【科目目標】 ・体表から身体の骨格、筋を確実に触れる知識を身につけると共に経穴の部位と筋の関係を理解し臨床に応用できる知識を習得する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前に解剖学等の教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	触診の基礎	
2	頭頸部、胸部の骨、棘突起、筋の触診	
3	上肢の骨、筋の触診	
4	上肢の骨、筋の触診	
5	腰部、臀部、腸骨の触診	
6	大体の骨、筋の触診	
7	下腿の骨、筋の触診	
8	足関節下の骨、筋の触診	
9	肺経、大腸経と筋	
10	胃経、脾経と筋	
11	神経、小腸経と筋	
12	膀胱経と筋	
13	腎経、心包経、三焦経と筋	
14	肝経、胆経と筋	
15	科目修了試験	
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・口頭試問形式の実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・授業時に資料配布		

【科目名】 社会はりきゅう学	【担当教員】 榎本 定夫	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 2単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・鍼灸院開設に必要な事項を理解する。 ・鍼灸院の運営に必要な具体的事項を理解する。 ・鍼灸院運営に関連する事項を理解する。 ・社会に求められる鍼灸医療を考え理解する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキスト等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	鍼灸院開設に必要な事項（理念・施設・設備・届出）	
2	治療院経営の実務（1）会計管理（会計帳簿）	
3	治療院経営の実務（2）会計管理（決算・課税申告）	
4	治療院経営の実務（3）文書管理（カルテ・紹介状・その他）	
5	治療院経営の実務（4）医療保険制度	
6	治療院経営の実務（5）医療保険の取り扱い（1）適応症と同意書	
7	治療院経営の実務（6）医療保険の取り扱い（2）療養費支給申請書	
8	治療院経営の実務（7）自動車損害賠償責任保険の取り扱い	
9	治療院経営の実務（8）患者さんに対する対応について	
10	治療院経営の実務（9）リスク管理とトラブル処理	
11	鍼灸業の沿革と無資格者について	
12	鍼灸業の課題	
13	業団体、学会、研修会、推薦図書	
14	鍼灸院の実例	
15	テーマ「私の目指す鍼灸師像」について発表とレポート提出	
【評価方法】 ・15回目に確認試験を行う		
【テキスト・教科書】 配布資料		

【科目名】 基礎実習はり実技Ⅰ	【担当教員】 吉田 顕識、大野 達也	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・鍼の基礎知識、消毒方法、実技室の注意事項を学ぶ。 ・刺鍼練習器で、鍼をスムーズに刺鍼することができる。 ・実際の使用する鍼を用いて、人体への刺鍼までの取り扱い方を学ぶ 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	片手挿管、衛生管理の確認	担当：吉田
2	片手挿管・触診の基本とタオルワーク	担当：吉田
3	片手挿管・触診の基本とタオルワーク	担当：吉田
4	刺鍼練習器を用いての前揉捻、「切皮痛」	担当：吉田
5	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（1）、「得気」	担当：吉田
6	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（2）、十七手技の練習（1）	担当：吉田
7	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（3）、十七手技の練習（2）	担当：吉田
8	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（4）消毒の手順と自己刺鍼（下肢）	担当：吉田
9	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（5）及び自己刺鍼（下肢）	担当：吉田
10	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（6）及び自己刺鍼（下肢） 十七手技の練習（3）	担当：吉田
11	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（7）及び対人刺鍼（下肢）	担当：吉田
12	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（8）及び対人刺鍼（下肢）	担当：吉田
13	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（9）及び対人刺鍼（下肢） 十七手技の練習（4）	担当：吉田
14	刺鍼練習器を用いての刺鍼練習（9）及び対人刺鍼（下肢） 十七手技の練習（5）	担当：吉田
15	科目修了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 基礎実習はり実技Ⅰ	【担当教員】 大野 達也、吉田 顕識	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・消毒を含め鍼を安全に扱えるようにする ・刺鍼練習器で、鍼をスムーズに刺す事が出来る ・実際の鍼を用いて消毒から鍼を人体に刺入するまで一連の取り扱いを学ぶ 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前、事後に基本動作の繰り返し練習の実施、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	刺鍼練習	担当：大野
2	刺鍼練習	担当：大野
3	刺鍼練習	担当：大野
4	刺鍼練習	担当：大野
5	刺鍼練習	担当：大野
6	刺鍼練習	担当：大野
7	刺鍼練習	担当：大野
8	科目修了試験	担当：大野
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 基礎実習はり実技Ⅱ	【担当教員】 吉田 顕識、大野 達也	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・正しい手順で消毒を行い、鍼を安全に扱えるようにする ・自己・他人刺鍼で、鍼をスムーズに刺鍼することができる ・実際の使用する鍼を用いて、人体への刺鍼までの取り扱い方を学ぶ ・接遇の基礎を徹底し、実際の臨床に対応できる技術を身に付ける 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	接遇の基礎 身体各部（上・下肢部）の刺鍼、陽明経① 対人刺鍼	担当：吉田
2	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、太陽経① 対人刺鍼	担当：吉田
3	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、少陽経① 対人刺鍼	担当：吉田
4	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、太陰経① 対人刺鍼	担当：吉田
5	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、少陰腎① 対人刺鍼	担当：吉田
6	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、厥陰経① 対人刺鍼	担当：吉田
7	体幹部の取穴とその部位への刺鍼 督脈① 対人刺鍼	担当：吉田
8	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、陽明経② 対人刺鍼	担当：吉田
9	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、太陽経② 対人刺鍼	担当：吉田
10	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、少陽経② 対人刺鍼	担当：吉田
11	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、太陰経② 対人刺鍼	担当：吉田
12	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、少陰腎② 対人刺鍼	担当：吉田
13	身体各部（上・下肢部）の刺鍼、厥陰経② 対人刺鍼	担当：吉田
14	体幹部の取穴とその部位への刺鍼 督脈② 対人刺鍼	担当：吉田
15	科目修了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 基礎実習はり実技Ⅱ	【担当教員】 大野 達也、吉田 顕識	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・ 鍼をどのくらい刺入したかを判断できる ・ 実際の鍼を用いて消毒から鍼を人体に刺入するまで一連の取り扱いを学ぶ ・ 対人で経穴上に鍼を正確に刺す事が出来る 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	対人刺鍼に関しての確認	担当：大野
17	下肢の取穴とその部位への刺鍼	担当：大野
18	下肢の取穴とその部位への刺鍼	担当：大野
19	下肢の経穴の取穴とその部位への刺鍼	担当：大野
20	下肢の経穴の取穴とその部位への刺鍼	担当：大野
21	下肢の経穴の取穴とその部位への刺鍼	担当：大野
22	下肢の経穴の取穴とその部位への刺鍼	担当：大野
23	科目修了試験	担当：大野
【評価方法】 ・ 科目終了試験を実施 ・ 実技試験によって評価する。		
【テキスト・教科書】 ・ 有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 ・ (社) 東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】		

【科目名】 基礎実習きゅう実技Ⅰ	【担当教員】 新村 孝雄、鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・鍼灸術全体の中における灸術の位置を理解する ・艾のひねり方、線香の扱い方を習得する、初歩的な灸を体験させる ・竹筒上施灸、60 秒計時、12 壮を目標とする 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	灸の道具の扱い方	担当：新村
2	米粒大艾のひねり及び線香の扱い方、点火	担当：新村
3	灸の歴史、灸の一般的知識、灸の現状	担当：新村
4	ペーパータオル上、竹筒上での施灸練習	担当：新村
5	竹筒上での施灸／60 秒計測（以降毎回）	担当：新村
6	ペーパータオル上、竹筒上での施灸練習	担当：新村
7	8 分灸デモンストレーション（学生の腕）	担当：新村
8	三陰交、足三里（8 分灸、学生自身の足）	担当：新村
9	ペーパータオル上、竹筒上、学生自身の足での施灸練習	担当：新村
10	ペーパータオル上、竹筒上、学生自身の足での施灸練習	担当：新村
11	ペーパータオル上、竹筒上、学生自身の足での施灸練習	担当：新村
12	背部への施灸練習	担当：新村
13	下腹部への施灸練習	担当：新村
14	総合練習	担当：新村
15	期末試験	担当：新村
【評価方法】 ・科目終了試験は 15 回目に実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】 ・配付資料		

【科目名】 基礎実習きゅう実技Ⅰ	【担当教員】 鈴木 由美、新村 孝雄	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・艾のひねり方、線香の扱い方を習得する、初歩的な灸を体験させる 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	灸のひねり方、道具の説明	担当：鈴木
17	灸術の種類、透熱灸（米粒、半米粒、糸状）灸の鑑別	担当：鈴木
18	米粒大艾のひねり（竹筒上、非点火）	担当：鈴木
19	同上、及び線香の扱い方、点火	担当：鈴木
20	灸の温度変化について知る	担当：鈴木
21	米粒～半米粒大艾炷、竹筒上施灸(1)	担当：鈴木
22	米粒～半米粒大艾炷、竹筒上施灸(2)	担当：鈴木
23	科目修了試験	担当：鈴木
【評価方法】 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】		

【科目名】 基礎実習きゅう実技Ⅱ	【担当教員】 新村 孝雄、鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・ 半米粒大艾炷による透熱無痕灸の体得 ・ 様々な灸施術の体得と、基本的な施術部位の習得 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	足底の灸（失眠・裏内庭・湧泉）	担当：新村
2	足底灸 下腹部灸を自分に練習	担当：新村
3	下腹部のお灸（関元など）	担当：新村
4	大巨 中条流子孕みの灸 子宮穴	担当：新村
5	糸状灸（練習）	担当：新村
6	糸状灸（瘀血を囲んで 腹部や足関節）	担当：新村
7	知熱灸（練習）	担当：新村
8	知熱灸（肩甲間部・肩上部） 背部俞穴の触診、取穴、施灸	担当：新村
9	知熱灸（練習）	担当：新村
10	足底・下腹部・背部俞穴の触診、取穴、施灸（練習）	担当：新村
11	胃の六つ灸	担当：新村
12	風邪の初期治療	担当：新村
13	頭皮のお灸（上星・百会・生え際）	担当：新村
14	総合練習	担当：新村
15	期末試験	担当：新村
【評価方法】 ・ 科目終了試験は 15 回目に実施 ・ 実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ 染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】 ・ 配付資料		

【科目名】 基礎実習きゅう実技Ⅱ	【担当教員】 鈴木 由美、新村 孝雄	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・ 半米粒大艾炷による透熱無痕灸の体得、対人施灸が安全に行うことが出来る。 ・ 隔物灸を体験し、お灸の温かさを知る。温かい隔物灸を作ることが出来る。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ 事前に基本動作の確認を繰り返し行う。講義終了後は授業内に行った演習について行えるようにしておくこと。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	灸のリスクマネジメント、胃の六つ灸（膈兪・肝兪・脾兪）	担当：鈴木
17	せんねん灸の使い方	担当：鈴木
18	知熱灸	担当：鈴木
19	塩 灸	担当：鈴木
20	生姜灸	担当：鈴木
21	みそ灸	担当：鈴木
22	棒灸（押し灸）	担当：鈴木
23	科目修了試験	担当：鈴木
【評価方法】 ・ 実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ 染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】 ・ 印刷資料を配付する場合がある		

【科目名】 応用実習はり実技ⅠA	【担当教員】 吉田 眞夢、榎本 定夫	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・経絡経穴を理解する ・診査・治療に応用する為、正しく取穴し適切かつ安全に刺鍼できる 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	五要穴（原穴）取穴・刺鍼	担当：吉田
2	五要穴（郄穴）取穴	担当：吉田
3	五要穴（郄穴）刺鍼	担当：吉田
4	五要穴（絡穴）取穴	担当：吉田
5	五要穴（絡穴）刺鍼	担当：吉田
6	確認試験	担当：吉田
7	五要穴（募穴）取穴	担当：吉田
8	五要穴（募穴）刺鍼	担当：吉田
9	五要穴（背部俞穴）取穴	担当：吉田
10	五要穴（背部俞穴）刺鍼	担当：吉田
11	身体各部の経絡経穴取穴（頭部）	担当：吉田
12	身体各部の経絡経穴取穴（頭部）	担当：吉田
13	身体各部の経絡経穴取穴（頸部）	担当：吉田
14	身体各部の経絡経穴取穴（頸部）	担当：吉田
15	科目修了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・確認試験と、15 回目に科目終了試験を実施 ・確認試験と科目終了試験を、口頭試問と実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本社】 ・解剖トレーニングノート 第5版 【医学教育出版社】		

【科目名】 応用実習はり実技ⅠA	【担当教員】 榎本 定夫、吉田 眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・ 基本的なバイタルサインの測定が正しくできるようになる。 ・ 神経系の診察の意義および概要を理解し、基本的な手技を実践できるようになる 【授業者】 ・ 本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・ 授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	0 リングテスト (1) 基本	担当：榎本
17	0 リングテスト (2) 手技	担当：榎本
18	0 リングテスト (3) 応用	担当：榎本
19	脈診入門 (祖脈)	担当：榎本
20	切経 (1) 上肢・下肢	担当：榎本
21	切経 (2) 頸肩部	担当：榎本
22	切経 (3) 胸腹部・背腰部	担当：榎本
23	科目修了試験	担当：榎本
【評価方法】 ・ 23 回目に確認試験を行う		
【テキスト・教科書】 ・ 配付資料		

【科目名】 応用実習はり実技ⅠB	【担当教員】 横木 宗晴、吉田顕識	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・低周波はり通電療法の適応と禁忌を理解し、目的に応じて使用することができる。 ・低周波はり通電療法の鍼治療の実践方法を学び、安全に使用することができる。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	低周波はり通電（1）パルスの説明、前脛骨筋	担当：横木
2	低周波はり通電（2）筋パルス：前脛骨筋、長指伸筋	担当：横木
3	低周波はり通電（3）筋パルス：長・短腓骨筋、後脛骨筋	担当：横木
4	低周波はり通電（4）筋パルス：腓腹筋、ヒラメ筋	担当：横木
5	低周波はり通電（5）筋パルス：大腿二頭筋、半腱様筋	担当：横木
6	低周波はり通電（6）筋パルス：大腿直筋、内側広筋、外側広筋	担当：横木
7	低周波はり通電（7）筋パルス：大腿筋膜張筋、中殿筋	担当：横木
8	低周波はり通電（8）筋パルス：下肢復習	担当：横木
9	低周波はり通電（9）筋パルス：尺側手根屈筋、総指伸筋	担当：横木
10	低周波はり通電（10）筋パルス：上腕二頭筋、上腕三頭筋	担当：横木
11	低周波はり通電（11）筋パルス：棘上筋、棘下筋	担当：横木
12	低周波はり通電（12）筋パルス：僧帽筋	担当：横木
13	低周波はり通電（13）筋パルス：正中神経、尺骨神経	担当：横木
14	低周波はり通電（14）総復習	担当：横木
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	担当：横木
【評価方法】 ・15回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 応用実習はり実技ⅠB	【担当教員】 吉田 顕識、横木 宗晴	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・リスク管理ができたうえで適切なコミュニケーションができる ・衛生管理の大切さを理解し実践できる ・危険予測ができ、対処法を行える 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	接遇・マナー復習	担当：吉田
17	接遇・マナー（グループワーク）	担当：吉田
18	消毒・感染症対策（接触鍼・小児鍼）	担当：吉田
19	リスク管理（気胸、症例）	担当：吉田
20	迎え鍼・返し鍼	担当：吉田
21	透刺鍼・水平刺鍼	担当：吉田
22	皮内鍼・円皮鍼、患者対応など	担当：吉田
23	科目修了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・科目修了試験により評価する		
【テキスト・教科書】 ・有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 ・山下 仁 著 マンガ 鍼灸臨床インシデント【医道の日本】 ・配付資料		

【科目名】 応用実習はり実技ⅡA	【担当教員】 大野 達也、横木 宗晴	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・背部の施術に関し、リスクや適切な部位を理解し、スムーズかつ安全に施術できる知識、技術を習得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	背部への施術 ランドマークの確認	担当：大野
2	背部への施術 ランドマークの実際	担当：大野
3	背部への施術 触診とタオルワーク	担当：大野
4	背部への施術 深度と角度の注意	担当：大野
5	背部への施術 片手挿管	担当：大野
6	背部への施術 得気	担当：大野
7	背部への施術 気胸について	担当：大野
8	背部への施術 背部施術の意義	担当：大野
9	背部への施術 取穴	担当：大野
10	背部への施術 切皮	担当：大野
11	背部への施術 押手	担当：大野
12	背部への施術 揉捻	担当：大野
13	背部への施術 リスク管理	担当：大野
14	背部への施術	担当：大野
15	総復習	担当：大野
【評価方法】 ・科目終了試験により評価する		
【テキスト・教科書】 有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 （社）東洋療法学校協会編 東洋医学臨床論（はりきゅう編）【医道の日本】 （社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本】		

【科目名】 応用実習はり実技ⅡA	【担当教員】 横木 宗晴、大野 達也	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・東洋医学臨床論を基礎に臨床に際しての治療穴の選択や刺鍼技術の修得を目標とする。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	頭痛（筋収縮性）①	担当：横木
17	頭痛（筋収縮性、片頭痛）②	担当：横木
18	顔面痛	担当：横木
19	顔面神経麻痺	担当：横木
20	咳と痰	担当：横木
21	眼精疲労	担当：横木
22	総復習	担当：横木
23	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	担当：横木
【評価方法】 ・8回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 応用実習はり実技ⅡB	【担当教員】 吉田 眞夢、白野 吉明	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・ 経絡経穴を理解する ・ 診査・治療に応用する為、正しく取穴し適切かつ安全に刺鍼できる 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	身体各部の経絡経穴取穴（肩背部）	担当：吉田
2	身体各部の経絡経穴取穴（肩背部）	担当：吉田
3	身体各部の経絡経穴取穴（顔面部）	担当：吉田
4	身体各部の経絡経穴取穴（顔面部）	担当：吉田
5	身体各部の経絡経穴取穴（胸腹部）	担当：吉田
6	身体各部の経絡経穴取穴（胸腹部）	担当：吉田
7	確認試験	担当：吉田
8	身体各部の経絡経穴取穴（腰部）	担当：吉田
9	身体各部の経絡経穴取穴（腰部）	担当：吉田
10	身体各部の経絡経穴取穴（上肢）	担当：吉田
11	身体各部の経絡経穴取穴（上肢）	担当：吉田
12	身体各部の経絡経穴取穴（下肢）	担当：吉田
13	身体各部の経絡経穴取穴（下肢）	担当：吉田
14	上肢・下肢の五行穴の取穴復習	担当：吉田
15	科目修了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・ 確認試験と、15 回目に科目終了試験を実施 ・ 確認試験と科目修了試験は、口頭試問と実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・ 解剖トレーニングノート 第 5 版 【医学教育出版社】		

【科目名】 応用実習はり実技ⅡB	【担当教員】 白野 吉明、吉田 眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 - 臨床で多く接する病状を西洋医学、東洋医学の両面で把握し、実際の施術に結びつける。 【授業者】 - 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 - 事後に基本動作の繰り返し練習の実施、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容を復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	腰痛等の施術 1	担当：白野
17	腰痛等の施術 2	担当：白野
18	膝痛等の施術 1	担当：白野
19	膝痛等の施術 2	担当：白野
20	頸部痛、肩痛等の施術 1	担当：白野
21	頸部痛、肩痛等の施術 2	担当：白野
22	肘痛、その他疾患と施術	担当：白野
23	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	担当：白野
【評価方法】 口頭試問又は疾患対応形式の実技試験を実施して評価する。		
【テキスト・教科書】 配付資料		

【科目名】 応用実習きゅう実技Ⅰ	【担当教員】 吉田 眞夢、横木 宗晴	
【区分】 専門科目		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・症例毎の標治穴と本治穴に対する施灸法を学習し、標本同治を行えるようになる ・透熱灸の灸熱を緩和する技術を習得する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	米粒大の艾炷の大きさ、硬さの確認	担当：吉田
2	糸状灸	担当：吉田
3	バセドウ病	担当：吉田
4	前立腺肥大、排尿障害	担当：吉田
5	八髎穴の取穴	担当：吉田
6	捻挫・打撲	担当：吉田
7	糖尿病の治療	担当：吉田
8	確認試験	担当：吉田
9	灸熱緩和の実践	担当：吉田
10	三叉神経痛の治療	担当：吉田
11	高血圧の治療	担当：吉田
12	めまいの治療	担当：吉田
13	五十肩の治療	担当：吉田
14	貫きの灸 顔面施灸	担当：吉田
15	科目終了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・確認試験、科目終了試験を実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】 ・配付資料		

【科目名】 応用実習きゅう実技Ⅰ	【担当教員】 横木 宗晴、吉田 眞夢	
【区分】 専門科目		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・安全に灸頭鍼が実施できるための注意点を学ぶ。 ・安全で効果的な灸頭鍼の技術を体得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	灸頭鍼（1）安全に灸頭鍼が実施できるための注意点	担当：横木
17	灸頭鍼（2）艾をまるめて針柄に付ける（講義・実技）	担当：横木
18	灸頭鍼（3）各自身体にて点火，温度の調節（講義・実技）	担当：横木
19	灸頭鍼（4）各自身体にて点火，安全な施術（実技）	担当：横木
20	灸頭鍼（5）相互に練習（上肢）	担当：横木
21	灸頭鍼（6）相互に練習（下肢）	担当：横木
22	灸頭鍼（7）相互に練習（腰部）	担当：横木
23	科目終了試験、および、実技試験の振り返り	担当：横木
【評価方法】 ・8 回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 応用実習きゅう実技Ⅱ	【担当教員】 新村 孝雄、鈴木 由美	
【区分】 専門科目		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・日本に古来から伝わる家伝の灸の施灸術を学習する ・毎回前半に施灸の練習を行い、後半に症例に沿った施灸を行う 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	呼吸器疾患（上田の肺病を治す名灸師 患門）	担当：新村
2	おねしょ（安井の家伝灸）四華	担当：新村
3	蓄膿症（牛込神楽坂）	担当：新村
4	ものもらい（千葉佐原）面疔（桜井戸の灸）	担当：新村
5	小児斜差の灸（安閑寺の灸）	担当：新村
6	竹を使ったへその塩灸（深谷伊三郎考案）	担当：新村
7	できもの・扁桃腫瘍（番場の灸 ハスの名灸）	担当：新村
8	わきがの灸（新宿追分わきがの灸）	担当：新村
9	中気予防（千本松の灸）	担当：新村
10	中風予防（中風石井の灸・草加中風予防の灸）	担当：新村
11	中風予防と不妊（四つ木の灸）	担当：新村
12	眼の病（太田眼の灸・井草の眼の灸）	担当：新村
13	頭痛（浅草お富士さん）	担当：新村
14	総合演習	担当：新村
15	期末試験	担当：新村
【評価方法】 ・科目終了試験は15 回目に実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】 ・配付資料		

【科目名】 応用実習きゅう実技Ⅱ	【担当教員】 鈴木 由美、新村 孝雄	
【区分】 専門科目		
【開講時期】 2 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・症例毎の標治穴と本治穴に対する施灸法を学習し、標本同治を行えるようになる。 ・各種疾患を理解し、治療穴を正しく取り施灸することができる。 ・透熱灸の灸熱を緩和する技術を習得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に基本動作の確認を繰り返し行う。講義終了後は授業内に行った演習について行えるようにしておくこと。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	風邪の治療	担当：鈴木
17	喘息の治療	担当：鈴木
18	頭部のお灸	担当：鈴木
19	坐骨神経痛の治療	担当：鈴木
20	更年期障害の治療	担当：鈴木
21	過敏性腸症候群の治療	担当：鈴木
22	吸角法	担当：鈴木
23	科目修了試験	担当：鈴木
【評価方法】 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・染谷寛治 著 わたしがお灸で体験したこと【北都健勝学園】 ・配付資料		

【科目名】 臨床入門はり実技Ⅰ	【担当教員】 白野 吉明、横木 宗晴	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・実際の臨床の場を想定し、各疾患にそくした鍼施術対応がおこなえる鍼灸師を目指す 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	中医弁証論治 1	担当：白野
2	中医弁証論治 2	担当：白野
3	不定愁訴に対する鍼施術 1	担当：白野
4	不定愁訴に対する鍼施術 2	担当：白野
5	精神状態改善を目指す鍼施術 1	担当：白野
6	精神状態改善を目指す鍼施術 2	担当：白野
7	精神状態改善を目指す鍼施術 3	担当：白野
8	精神状態改善を目指す鍼施術 4	担当：白野
9	加齢も含めた生活習慣病改善を目指す鍼施術 1	担当：白野
10	加齢も含めた生活習慣病改善を目指す鍼施術 2	担当：白野
11	加齢も含めた生活習慣病改善を目指す鍼施術 3	担当：白野
12	その他臨床の場で役立つ鍼施術 1	担当：白野
13	その他臨床の場で役立つ鍼施術 2	担当：白野
14	その他臨床の場で役立つ鍼施術 3	担当：白野
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	担当：白野
【評価方法】 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・経絡経穴概論 東洋療法学校協会 ・配布資料		

【科目名】 臨床入門はり実技Ⅰ	【担当教員】 横木 宗晴、白野 吉明	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・鍼灸の臨床では様々な施術方法がある。臨床現場で活かせる技術を修得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	頸部の施術方法	担当：横木
17	肩部の施術方法	担当：横木
18	背部の施術方法①	担当：横木
19	背部の施術方法②	担当：横木
20	腰部の施術方法①	担当：横木
21	腰部の施術方法②	担当：横木
22	下肢の施術方法	担当：横木
23	科目終了試験、および、実技試験の振り返り	担当：横木
【評価方法】 ・8回目に科目修了試験を実施する。		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 臨床入門はり実技Ⅱ	【担当教員】 榎本 定夫、専任教員、	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・鍼灸の臨床では色々な治療方法と診断方法がある。そのため、さまざまな臨床方法と診断方法を学び、臨床現場で活かせる技術を修得する。 【授業者】 ・本科目は、はり師、きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・授業後に配布資料やノート、教科書等を参考に復習することが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	治療家の心構え	担当：榎本
2	証決定から治療までの概要	担当：榎本
3	健康保持の治療	担当：榎本
4	老人と子供の治療	担当：榎本
5	頭部の疾患（1）	担当：榎本
6	頭部の疾患（2）	担当：榎本
7	頤・肩・上肢の疾患（1）	担当：榎本
8	頤・肩・上肢の疾患（2）	担当：榎本
9	腰部と下肢の疾患（1）	担当：榎本
10	腰部と下肢の疾患（2）	担当：榎本
11	胸部の疾患	担当：榎本
12	腹部の疾患	担当：榎本
13	その他の疾患（1）	担当：榎本
14	その他の疾患（2）	担当：榎本
15	科目修了試験、まとめ	担当：榎本
【評価方法】 ・15回目に科目終了試験を実施		
【テキスト・教科書】 ・配布資料		

【科目名】 臨床入門はり実技Ⅱ	【担当教員】 榎本 定夫、専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・臨床に際しての刺鍼技術や応用技術の修得を目標とする。 ・刺激量の調節ができる。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	臨床に関わる治療方法と診断方法（1）	専任教員
17	臨床に関わる治療方法と診断方法（2）	専任教員
18	臨床に関わる治療方法と診断方法（3）	専任教員
19	臨床に関わる治療方法と診断方法（4）	専任教員
20	臨床に関わる治療方法と診断方法（5）	専任教員
21	臨床に関わる治療方法と診断方法（6）	専任教員
22	臨床に関わる治療方法と診断方法（7）	専任教員
23	臨床に関わる治療方法と診断方法（8）	専任教員
【評価方法】 ・授業内にて評価する。		
【テキスト・教科書】 ・有馬義貴 著 はりきゅう基礎技術学【南江堂】 ・（社）東洋療法学校協会編 東洋医学臨床論（はりきゅう編）【医道の日本】 ・（社）東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版【医道の日本】		

【科目名】 臨床入門きゅう実技Ⅰ	【担当教員】専任教員（助手：田村宏樹）、鈴木 由美	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・比較的多い症例、又一般に難治、不治とされている病気、症状に対しての治療法を考える ・痛みのある疾患は、標本治療を終了後に患者に身体を動かして、痛みの未だ残っている処を探し出し、そこに再度集中治療する方法を会得させる ・過剰刺激、深追い治療にならないように注意する 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	狭心症、心筋梗塞	担当：鈴木
2	顔面神経麻痺	担当：鈴木
3	膝関節症	担当：鈴木
4	膀胱炎	担当：鈴木
5	種々の眼疾患	担当：鈴木
6	頭痛	担当：鈴木
7	便秘	担当：鈴木
8	下痢	担当：鈴木
9	潰瘍性大腸炎	担当：鈴木
10	てんかん	担当：鈴木
11	不妊症、子宮筋腫	担当：鈴木
12	腎臓疾患	担当：鈴木
13	ギヨン管	担当：鈴木
14	手根管症候群	担当：鈴木
15	科目修了試験・振り返り	担当：鈴木
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 臨床入門きゅう実技Ⅰ	【担当教員】鈴木 由美、専任教員（助手：田村宏樹）	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・比較的多い症例、又一般に難治、不治とされている病気、症状に対しての治療法を考える ・艾柱の硬さを自由自在にさせる練習をさせる ・標治穴と本治穴に分けて考え、それぞれ取穴施灸する ・本治穴は直接的な本治穴と太極治療の本治穴にわけて考える 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	胃の六つの灸、膝痛治療	担当：鈴木
17	寝違えの治療	担当：鈴木
18	白内障・緑内障の治療	担当：鈴木
19	五十肩の治療	担当：鈴木
20	テニス肘	担当：鈴木
21	腱鞘炎、不眠の治療	担当：鈴木
22	頭痛の治療	担当：鈴木
23	科目修了試験	担当：鈴木
【評価方法】 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 臨床入門きゅう実技Ⅱ	【担当教員】 白野吉明（助手：田村宏樹）	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15/23 コマ
【科目目標】 ・比較的多い症例、又一般に難治、不治とされている病気、症状に対しての治療法を考える ・伝統的な灸の折縄取穴法を理解する ・更に良い選穴法のある事を理解させ、それを模索する週刊をつけさせる ・既成概念や先入観に捉われぬ自由な発想ができるようにする 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	婦人科疾患と灸	担当：白野
2	妊娠、出産の灸	担当：白野
3	出産後の灸（腹痛・乳）	担当：白野
4	小児の灸治療	担当：白野
5	虫垂炎	担当：白野
6	ヘルペス	担当：白野
7	疣	担当：白野
8	円形脱毛症	担当：白野
9	蕁麻疹	担当：白野
10	ものもらい（眼疾患）	担当：白野
11	近視・遠視	担当：白野
12	慢性副鼻腔炎	担当：白野
13	学生からリクエストの多い灸治療①	担当：白野
14	学生からリクエストの多い灸治療②	担当：白野
15	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	担当：白野
【評価方法】 ・科目終了実技試験によって評価する。		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 臨床入門きゅう実技Ⅱ	【担当教員】 吉田 眞夢	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8/23 コマ
【科目目標】 ・比較的多い症例、又一般に難治、不治とされている病気、症状に対しての治療法を考える ・伝統的な間接灸・直接灸の療法を理解する。 ・更に良い選穴法のある事を理解させ、それを模索する習慣をつけさせる ・既成概念や先入観に捉われぬ自由な発想ができるようにする 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	塩 灸	担当：吉田
17	くるみ灸	担当：吉田
18	疣・皮膚疾患	担当：吉田
19	箱 灸	担当：吉田
20	箱 灸	担当：吉田
21	膝痛・肩痛の灸頭鍼	担当：吉田
22	学生から質問の多い治療法	担当：吉田
23	科目終了試験	担当：吉田
【評価方法】 ・科目終了試験を実施 ・実技試験によって評価する		
【テキスト・教科書】 ・配付資料		

【科目名】 総合演習 (臨床実習前実技試験)	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・臨床実習に望む為の最低限の知識と技術の確認をする。 ・模擬診察実習で、その知識と技術を結びつけて活用できるかを確認する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	メディカル・インタビュー	
2	診療録記載法	
3	身体診察（全身所見・バイタル検査）	
4	身体観察（関節可動域、筋力検査等）	
5	神経学的検査	
6	理学的検査 頸部	
7	理学的検査 肩部	
8	理学的検査 腰部	
9	理学的検査 股関節部等	
10	理学的検査 膝部	
11	模擬診療実習 1	
12	模擬診療実習 2	
13	模擬診療実習 3	
14	模擬診療実習 4	
15	確認試験	
【評価方法】 ・科目終了後試験を実施		
【テキスト・教科書】		

【科目名】 臨床実習	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 2単位	【コマ数】 45コマ
【科目目標】 ・医療面接技法、診察、鑑別検査を確実に身につけ、安全で確実な施術補助が実践できるようになる ・症例報告の書き方、文献検索の仕方を理解し、的確な診療録を作成できるようになる 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・対象者の疾患および周辺症状を理解し、理学検査や病態把握を通して考察を立てる		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	プレ実習①	
2	プレ実習②	
3	プレ実習③	
4	プレ実習④	
5	プレ実習⑤	
6	プレ実習⑥	
7	プレ実習⑦	
8	プレ実習⑧	
9	プレ実習⑨	
10	プレ実習⑩	
11	プレ実習⑪	
12	プレ実習⑫	
13	プレ実習⑬	
14	プレ実習⑭	
15	プレ実習⑮	
【評価方法】 ・総合して評価する。		
【テキスト・教科書】 ・臨床実習便覧		

【科目名】 臨床実習	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 45 コマ
【科目目標】 ・医療面接技法、診察、鑑別検査を確実に身につけ、安全で確実な施術補助が実践できるようになる ・症例報告の書き方、文献検索の仕方を理解し、的確な診療録を作成できるようになる 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・対象者の疾患および周辺症状を理解し、理学検査や病態把握を通して考察を立てる		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	ベッドサイド実習第 1 クール 1 診目	
17	ベッドサイド実習第 1 クール 1 診目フィードバック	
18	ベッドサイド実習第 1 クール 2 診目	
19	ベッドサイド実習第 1 クール 2 診目フィードバック	
20	ベッドサイド実習第 1 クール 3 診目	
21	ベッドサイド実習第 1 クール 3 診目フィードバック	
22	ベッドサイド実習第 1 クール 4 診目	
23	ベッドサイド実習第 1 クール 4 診目フィードバック	
24	ベッドサイド実習第 1 クール 5 診目	
25	ベッドサイド実習第 1 クール 5 診目フィードバック	
26	ベッドサイド実習第 1 クール 6 診目	
27	ベッドサイド実習第 1 クール 6 診目フィードバック	
28	第 1 クール症例検討会 発表準備①	
29	第 1 クール症例検討会 発表準備②	
30	症例検討会 質疑応答準備、発表	
【評価方法】 ・総合して評価する。		
【テキスト・教科書】 ・臨床実習便覧		

【科目名】 臨床実習	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3 年次	【単位数】 2 単位	【コマ数】 45 コマ
【科目目標】 ・医療面接技法、診察、鑑別検査を確実に身につけ、安全で確実な施術補助が実践できるようになる ・症例報告の書き方、文献検索の仕方を理解し、的確な診療録を作成できるようになる 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・対象者の疾患および周辺症状を理解し、理学検査や病態把握を通して考察を立てる		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
31	ベッドサイド実習第 2 クール 1 診目	
32	ベッドサイド実習第 2 クール 1 診目フィードバック	
33	ベッドサイド実習第 2 クール 2 診目	
34	ベッドサイド実習第 2 クール 2 診目フィードバック	
35	ベッドサイド実習第 2 クール 3 診目	
36	ベッドサイド実習第 2 クール 3 診目フィードバック	
37	ベッドサイド実習第 2 クール 4 診目	
38	ベッドサイド実習第 2 クール 4 診目フィードバック	
39	ベッドサイド実習第 2 クール 5 診目	
40	ベッドサイド実習第 2 クール 5 診目フィードバック	
41	ベッドサイド実習第 2 クール 6 診目	
42	ベッドサイド実習第 2 クール 6 診目フィードバック	
43	第 2 クール症例検討会 発表準備①	
44	第 2 クール症例検討会 発表準備②	
45	第 2 クール症例検討会 質疑応答準備、発表	
【評価方法】 ・総合して評価する。		
【テキスト・教科書】 ・臨床実習便覧		

【科目名】 高齢者鍼灸学 (介護予防)	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 23コマ
【科目目標】 ・ 高齢者鍼灸の現場を体験し、鍼灸医療の役割や可能性を考える。 ・ 高齢者の対応を学び、臨床で生かせる知識を習得する。 【授業者】 ・ 本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・ 事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	オリエンテーション（施設見学の注意点）	
2	中高齢者の鍼灸治療について①	
3	中高齢者の鍼灸治療について②	
4	中高齢者の鍼灸治療について③	
5	三焦鍼法について①	
6	三焦鍼法について②	
7	三焦鍼法について③	
8	認知症について①	
9	認知症について②	
10	介護保険について①	
11	介護保険について②	
12	高齢者体験	
13	機能訓練見学①	
14	機能訓練見学②	
15	見学振り返り	
【評価方法】 ・ 総合して評価する。		
【テキスト・教科書】		

【科目名】 高齢者鍼灸学 (介護予防)	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 23コマ
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	調べ学習～身近な高齢者について～	
17	教材から高齢者を考える。	
18	講習会 (1) 準備・概要説明	
19	講習会 (1) 実施・片付け	
20	講習会 (1) 振り返り	
21	講習会 (2) 準備・概要説明	
22	講習会 (2) 実施・片付け	
23	講習会 (2) 振り返り	
【評価方法】 ・総合して評価する。		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 総合実習 (美容鍼灸・鍼灸不妊治療学)	【担当教員】 鈴木 由美、横木 宗晴	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1/3 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・養生法のアドバイスにより患者さんとの信頼関係を築き、他院に負けない付加価値を学ぶ。 ・不妊周期療法の基礎を学び、正しい知識を身につけ治療につなげることができる。 ・美容鍼灸治療の実践を学び、リスク管理や基本手技を身に付ける。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	不妊治療の基礎知識①	担当：横木
2	不妊治療の基礎知識②	担当：横木
3	不妊治療の東洋医学的治療法について①	担当：横木
4	不妊治療の東洋医学的治療法について②	担当：横木
5	美容鍼灸Ⅰ 概要・(リスク・効能等)	担当：鈴木
6	美容鍼灸Ⅱ (美容鍼灸ビデオ学習)【実技】	担当：鈴木
7	美容鍼灸Ⅲ (美容鍼のやり方)【実技】	担当：鈴木
8	美容鍼灸Ⅳ (確認試験、総まとめ)	担当：鈴木
【評価方法】 ・授業内にて評価する。		
【テキスト・教科書】 ・配布資料		

【科目名】 総合実習 (スポーツ・機能訓練鍼灸学)	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1/3単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・アスレチック・トレーナー業務における、鍼灸や手技療法の応用を学ぶ。 ・介護予防運動指導員の実際を知る。 ・介護予防運動指導を見学し、指導案を作成する。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	ストレッチ①	
2	ストレッチ②	
3	PNF①	
4	介助法①	
5	救急救命法①	
6	救急救命法②	
7	介護予防運動指導の実践①	担当：白野
8	介護予防運動指導の実践②	担当：白野
【評価方法】 ・授業内にて評価する。		
【テキスト・教科書】		

【科目名】 総合実習 (経絡治療・経筋治療)	【担当教員】 横木 宗晴 助手：池田孝文	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次 通年	【単位数】 1/3 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・経絡治療の概要を学ぶ。 ・経絡弁証に基づく治療の実際を学ぶ。 ・筋の解剖学的特性に基づく治療法の基礎を学ぶ。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	講義 経絡治療の概論	担当：横木
2	講義・治療法則と刺鍼脈診①	担当：横木
3	治療体験、脈診、基本刺鍼	担当：横木
4	脈診の概論	担当：横木
5	経筋治療(1) 概要	担当：横木
6	経筋治療(2) 理論	担当：横木
7	経筋治療(3) 実技	担当：横木
8	経筋治療(4) 各症例における実践	担当：横木
【評価方法】 ・授業内にて評価する。		
【テキスト・教科書】 ・配布資料		

【科目名】 古典・はき史学	【担当教員】 榎本 定夫	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・東洋医学の基礎となる古典を基に思想、概念を理解する。 ・鍼灸の発展と歴史を学び、未来の鍼灸を考える。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	鍼灸の歴史	
2	素問（1）	
3	素問（2）	
4	靈枢（1）	
5	靈枢（2）	
6	難経	
7	その他の古典	
8	科目修了試験、総まとめ	
【評価方法】 ・8回目に確認試験を行う		
【テキスト・教科書】 ・配付資料 ・東洋学術出版社「黄帝内経素問」他		

【科目名】 はりきゅう総合学Ⅰ	【担当教員】 的場已知子、横木宗晴、鈴木由美 白野吉明、吉田眞夢、大野達也	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次 前期	【単位数】 2単位	【コマ数】 30コマ
【科目目標】 ・専門基礎分野から専門分野にわたり、幅広い知識の統合・整理・定着を図る ・鍼灸治療を実施するために必要な専門基礎科目の知識を総復習する ・最終的にははり師、きゅう師国家試験合格の水準に達する専門基礎科目の知識を有することを目的とする 【授業形態】 ・講義、問題演習 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	臨床医学各論 第13章（その他の領域 麻酔科）	的場
2	臨床医学各論 第13章（その他の領域 精神科疾患）	的場
3	臨床医学各論 第13章（その他の領域 婦人科・小児科疾患）(1)	鈴木
4	臨床医学各論 第13章（その他の領域 婦人科・小児科疾患）(2)	鈴木
5	臨床医学各論 第13章（その他の領域 一般外科・損傷概論）	横木
6	臨床医学各論 第13章 （その他の領域 一般外科・熱傷、凍瘡と凍傷）	横木
7	臨床医学各論 第13章（その他の領域 一般外科・出血と止血、外科的感染症、皮膚科疾患）	横木
8	臨床医学各論 第13章（その他の領域 眼科疾患、耳鼻科疾患）	横木
9	臨床医学各論 第13章（その他の領域）	横木
10	臨床医学各論 第13章（その他の領域）	横木
11	解剖学 国家試験問題練習・解説①	吉田 顕識
12	解剖学 国家試験問題練習・解説②	吉田 顕識
13	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説①	横木
14	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説②	横木
15	経絡経穴、各論、 国家試験問題練習・解説③	横木

【科目名】 はりきゅう総合学Ⅰ		【担当教員】 的場已知子、横木宗晴、鈴木由美 白野吉明、吉田眞夢、大野達也
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 2単位	【コマ数】 30コマ
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説①	大野
17	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説②	大野
18	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説③	大野
19	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説④	大野
20	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説①	吉田 眞夢
21	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説②	吉田 眞夢
22	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説③	吉田 眞夢
23	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説①	白野
24	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説②	白野
25	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説③	白野
26	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説③	白野
27	東洋医学概論、午後総合 国家試験問題・解説①	鈴木
28	東洋医学概論、午後総合 国家試験問題・解説②	鈴木
29	第1回 はりきゅう総合学Ⅰ 科目修了試験	専任教員
30	第2回 はりきゅう総合学Ⅰ 科目修了試験	専任教員
【評価方法】		
・国家試験と同様の形式で2回実施する試験の結果を評価とする。 ・試験時間は通常と異なる為注意する事。		
【テキスト・教科書】		
・担当者および講義内容によって異なるため、担当教員との連絡を綿密に行うこと		

【科目名】 はりきゅう総合学Ⅱ	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・専門基礎分野から専門分野にわたり、幅広い知識の統合・整理・定着を図る ・鍼灸治療を実施するために必要な専門基礎科目の知識を総復習する ・最終的にははり師、きゅう師国家試験合格の水準に達する専門基礎科目の知識を有することを目的とする 【授業形態】 ・講義、問題演習 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	解剖学 国家試験問題練習・解説①	吉田 顕識
2	解剖学 国家試験問題練習・解説②	吉田 顕識
3	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説①	横木
4	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説②	横木
5	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説③	横木
6	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説①	大野
7	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説②	大野
8	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説①	吉田 眞夢
9	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説②	吉田 眞夢
10	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説①	白野
11	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説②	白野
12	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説③	白野
13	東洋医学概論、午後総合 国家試験問題・解説①	鈴木
14	東洋医学概論、午後総合 国家試験問題・解説②	鈴木
15	科目修了試験	専任教員
【本試験の評価方法】 ・国家試験と同様の形式で試験を実施し評価する。 ・試験時間は通常と異なる為注意する事。		
【テキスト・教科書】 担当者および講義内容によって異なるため、担当教員との連絡を綿密に行うこと		

【科目名】 はりきゅう総合学Ⅲ	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・専門基礎分野から専門分野にわたり、幅広い知識の統合・整理・定着を図る ・鍼灸治療を実施するために必要な専門基礎科目の知識を総復習する ・最終的にははり師、きゅう師国家試験合格の水準に達する専門基礎科目の知識を有することを目的とする 【授業形態】 ・講義、問題演習 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	解剖学 国家試験問題練習・解説①	吉田 顕識
2	解剖学 国家試験問題練習・解説②	吉田 顕識
3	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説①	横木
4	経絡経穴、各論 国家試験問題練習・解説②	横木
5	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説①	大野
6	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説②	大野
7	生理学、リハ、午前総合 国家試験問題練習・解説②	大野
8	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説①	吉田 眞夢
9	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説②	吉田 眞夢
10	公衆衛生、病理、東概 国家試験問題練習・解説③	吉田 眞夢
11	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説①	白野
12	医療概論、関係法規、総論、はりきゅう理論 国家試験問題・解説②	白野
13	東洋医学臨床論、午後総合 国家試験問題・解説①	鈴木
14	東洋医学臨床論、午後総合 国家試験問題・解説②	鈴木
15	科目修了試験	専任教員
【本試験の評価方法】 ・国家試験と同様の形式で試験を実施し評価する。 ・試験時間は通常と異なる為注意する事。		
【テキスト・教科書】 担当者および講義内容によって異なるため、担当教員との連絡を綿密に行うこと		

【科目名】 総合演習 I A	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・施設見学によりはり師きゅう師という職業の理解を深め、将来像をイメージする。 ・加工前のはりの材料を実際に手に取り、製造工程をより深く理解する。 ・各自、事前に採取しておいたヨモギから実際にモグサを作製することで、製造工程を理解する ・モグサ工場を見学し、市場に流通するモグサが実際に作られる過程を理解する ・解剖見学により人体の構造と機能を学び理解を深める。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 ・本科目は、鍼製造に関わる実務経験を有する講師が講義、演習を行う。 ・本科目は、鍼灸院で鍼灸治療における実務経験を有する講師が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に鍼、よもぎ、鍼灸治療について予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	ガイダンス 総合演習 I A の概要、ヨモギの採取、乾燥・保管	
2	はりの製造工程（業者による講義）	
3	鍼灸院見学（1）	
4	鍼灸院見学（1）	
5	もぐさの製作	
6	もぐさ工場見学	
7	解剖見学（1）	
8	解剖見学（2）	
【評価方法】 ・提出課題レポートにて評価する。		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 総合演習 I B	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 1 年次	【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ
【科目目標】 ・解剖学 I、生理学 I、東洋医学概論 I の 1 年次に学習した知識の総復習を行い、理解を深める。 (国試問題の解き方の演習を行う。) 【授業形態】 ・講義、問題演習 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	解剖学 復習と国試問題の解き方の演習①	
2	解剖学 復習と国試問題の解き方の演習②	
3	解剖学 復習と国試問題の解き方の演習③	
4	生理学 復習と国試問題の解き方の演習①	
5	生理学 復習と国試問題の解き方の演習②	
6	東洋医学概論 復習と国試問題の解き方の演習①	
7	東洋医学概論 復習と国試問題の解き方の演習②	
8	科目修了試験	
【評価方法】 ・科目修了試験により評価する		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 総合演習ⅡA	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・臨床実習を見学し、実習に臨む姿勢を学ぶ。 ・症例検討会に参加し、臨床情報の客観化の重要性を学ぶ。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	ガイダンス①	
2	ガイダンス②	
3	臨床実習（ベッドサイド第2クール）見学①	
4	臨床実習（ベッドサイド第2クール）見学②	
5	臨床実習（ベッドサイド第3クール）見学①	
6	臨床実習（ベッドサイド第3クール）見学②	
7	臨床実習 症例報告会参加	
8	臨床実習 症例報告会参加	
【評価方法】 ・臨床実習見学レポートによって評価する。		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 総合演習ⅡB	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・国家試験問題の出題傾向を理解する。 ・国家試験問題を解くことにより4択出題問題に慣れる。 ・国家試験範囲を総合的に復習する。 【授業形態】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや配布資料等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	国家試験問題対策①	
2	国家試験問題対策②	
3	国家試験問題対策③	
4	国家試験問題対策④	
5	国家試験問題対策⑤	
6	国家試験問題対策⑥	
7	国家試験問題対策⑦	
8	科目終了試験、および、試験の解説と講義の振り返り	
【評価方法】 ・8コマ目に科目修了試験を実施し評価する。		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 総合演習Ⅲ	【担当教員】 専任教員	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 3年次	【単位数】 1単位	【コマ数】 8コマ
【科目目標】 ・出張鍼灸治療を開業するために必要な準備について学ぶ。 ・出張鍼灸治療をするにあたり在宅治療におけるリスクマネジメント、ニーズ、集客法などを学ぶ。 ・現地見学を通して出張鍼灸治療がどのように実施されているかを学ぶ。 【授業者】 ・本科目は、はり師・きゅう師の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前に高齢者に関わる疾患や高齢者に対する鍼灸治療など予習し、演習終了後はノート等で演習内容の振り返りを行うことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	出張鍼灸治療について①	
2	出張鍼灸治療について②	
3	出張鍼灸治療について③	
4	出張鍼灸治療について④	
5	出張鍼灸治療について⑤	
6	出張鍼灸治療について⑥	
7	出張鍼灸治療について⑦	
8	出張鍼灸治療について⑧	
【評価方法】 ・レポート課題によって評価する。		
【テキスト・教科書】		

【科目名】中国語Ⅱ(選択科目)		【担当教員】橋本 親往	
【区分】基礎分野			
【開講時期】2年次 前期		【単位数】1単位	【コマ数】15コマ
【科目目標】 ①日本と中国は「互いに引っ越すことのできない隣人で、文化的にも地理的にも切っても切れない関係にある。言葉の学習を通して、中国人と日本人の表現雄しかた・考え方の違いを知り、相互理解の一助とすることができればよい。 ②将来の、本格的な中国語学習のための入門授業として、発音・ローマ字表記や初級会話(あいさつ、自己紹介や簡単な会話や関連する単語・常用表現)を身につける。 ③可能であれば「推」「拿」など中医学(鍼灸)とも関連のある単語などを中国語で言えるようにする。 【授業者】 対面授業。発音・会話練習に重点を置く。 【事前・事後学習】 事前に、次回の授業内容を配布する。授業後、翌週の授業開始前に、今回の授業に関連した課題(学習チェックテスト)を提出する。			
【回数】	【講義項目】	【講義内容】	【備考】
1	会話練習	「ビールを買いたいのです」単価の尋ね方／「了」／「ちょっと～する」	小テスト
2		「乗り換ええないといけません」～しなければいけない／～しないでください	小テスト
3		「セーターが欲しいです」助数詞／ちょっと～してみる／「也」／「就」	小テスト
4		【お役立ち単語集】中華料理の名称ーその1ー	小テスト
5		「両替をしに行きます」ちょっと～する／「也」／「都」／「里」／「了」	小テスト
6		「国際電話はかけられますか?」「几」／「是～的」／結果補語	小テスト
7		「北京ダックを食べたことはありません」呢／「有事」／「说」／「～过」	小テスト
8		【お役立ち単語集】中華料理の名称ーその2ー	小テスト
9		「シャブシャブを食べに」「才」／「还」／「还是」／手段・方法／方向補語	小テスト
10		「よくいらっしゃいました」理由を尋ねる／ねぎらう「辛苦了」／「要～了」	小テスト
11		「母のお土産をお持ちしました」気遣いや好意に対して／「从」「在」「到」…	小テスト
12		【お役立ち単語集】代表的な数量詞	小テスト
13		「今後の我々に乾杯!」交際用語／程度補語	小テスト
14		「折り返しお電話させましょうか?」電話の常套句／「给」／「正在～」	小テスト
15		「行きたいのですが…」「怎么」／「再说」／期間／「了」「没」	小テスト
【評価方法】 ・各課の課題(学習チェックテスト)70% ・出席・授業態度等 30%			
【テキスト・教科書】 ・『どんとこい中国語』(無料中国語会話テキスト)の中国語本文を基に、日本語解説等を修正編集。 ・授業で使うPPTのPDFおよび学習チェックリスト			

【科目名】 介護予防運動指導実習 (選択科目)	【担当教員】 立岩 俊哉	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 23コマ
【科目目標】 ・高齢者に特有の機能障害を理解し、その予防対策がとれる ・介護予防の必要性について理解する ・介護予防の評価について演習を通じ理解する 【授業者】 ・本科目は、介護予防運動指導実習の実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・事前にテキストおよび教科書等を用いて予習し、講義終了後はノートや教科書等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	フィットネス概論	
2	フィットネストレーニング理論	
3	フィットネスカウンセリング実習	
4	確認テストと解説	
5	介護予防概論【特論】	
6	アクシデントリスク管理【特論】	
7	介護予防評価学【特論】	
8	介護予防評価学【演習】	
9	高齢者筋力向上トレーニング【特論】	
10	転倒予防【特論】	
11	転倒予防【演習】	
12	介護予防統計学【特論】	
13	行動科学【特論】	
14	高齢者筋力向上トレーニング【演習】	
15	高齢者筋力向上トレーニング【演習】	

【科目名】 介護予防運動指導実習 (選択科目)	【担当教員】 立岩 俊哉	
【区分】 専門分野		
【開講時期】 2年次 前期	【単位数】 1単位	【コマ数】 23コマ
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
16	高齢者筋力向上トレーニング【演習】	
17	高齢者筋力向上トレーニング【演習】	
18	高齢者筋力向上トレーニング【演習】	
19	口腔機能向上【特論】	
20	失禁予防【特論】失禁予防【演習】	
21	行動科学【特論】	
22	認知症予防【特論】	
23	低栄養状態【特論】	
24	試験（介護予防運動指導員資格試験）	
【評価方法】 ・介護予防運動指導員資格試験により評価する		
【テキスト・教科書】 ・特になし		

【科目名】 上海演習（選択科目）	【担当教員】 上海中医薬大学講師	
【区分】 選択分野		
【開講時期】 2年次 後期	【単位数】 2単位	【コマ数】 15コマ
【科目目標】 ・上海中医薬大学病院内で各疾患別で行われている鍼灸治療を見学する。 ・推拿は現在、中国で医師によって実践されている伝統的医療手法のひとつである。確かな治療効果と多大な臨床研究データを得ており、学問的にも中国伝統医学理論の形成に大きな影響を与えている。このような推拿の発展略史と、治療理論を学ばせ、臨床手技や種々の疾患に対する治療方法を身につけることを目標とする。 【授業者】 ・本科目は上海中医薬大学において鍼灸治療に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 ・本科目は上海中医薬大学において推拿教育に関する実務経験を有する教員が講義、演習を行う。 【事前・事後学習】 ・講義終了後は、配布資料やノート等を用いて授業内容の復習しておくことが望ましい。		
【回数】	【講義内容・講義項目】	【備考】
1	上海中医薬大学病院鍼灸治療見学①	
2	上海中医薬大学病院鍼灸治療見学②	
3	上海中医薬大学病院鍼灸治療見学③	
4	上海中医薬大学病院鍼灸治療見学④	
5	中国推拿学発展史、手技（指圧）	
6	推拿手技の原理、流派、手技（魚際揉）	
7	手技（滾法）	
8	推拿手技の分類、一指禅推法	
9	垂直力を作用させる手法（単・重掌按法、撥法）	
10	揉動類手法（指揉法、勾揉法、単双掌揉法）	
11	平面運動類手法（指、掌、拳推法、抹法、掌摩法）	
12	対称的な力を作用させる手法（捏法、搓法擦法）	
13	拿法、捻法	
14	振動運動類手法（抖法、振法）	
15	叩撃運動類手法（指、掌、拳叩撃法）	
【評価方法】 ・研修態度、実技試験により評価する		
【テキスト・教科書】 ・配付資料等		